

# ななかまど Vol.40

## 北海道情報大学 入学式



写真：平成19年度入学式

### 目次

■学長あいさつ.....02	■現代GP.....16
■宿泊研修—新入生諸君に.....03	■海外との共同研究.....17
■新任教員あいさつ.....04	■情報通信月間行事.....18
■平成19年度入学式.....06	■江別高校インターンシップ実施.....18
■南京大学・施副学長一行来学.....07	■南京大学・日本文化研修一行来学.....19
■学術奨学生選考会.....08	■教務課より.....20
■南京大学から編入学生迎える.....08	■情報センターより.....22
■e-learning大賞総務大臣賞受賞.....09	■学生サポートセンターより.....23
■YOSAKOIソーラン祭りでダブル受賞.....10	■平成19年度体育祭.....24
■日本IBM 最高顧問講演会開催.....12	■ゼミ紹介.....26
■セイコーマート常務講演会開催.....13	■クラブ紹介.....27
■外務省外交講座開催.....13	■平成19年度公開講座.....28
■医学・医療の実験室紹介.....14	■フロンティアルーム紹介.....30
■学生相談所より.....15	■平成18年度決算.....31
■ホームページコンテスト作品募集.....15	■主要行事・編集後記.....32





## 新入生諸君

学長 嘉数 侑昇

新入生諸君、ようこそ北海道情報大学へ。実のところ、かく言う私も諸君同様なり立てホヤホヤの学長である。若さと希望あふれる諸君とは違い、ホヤホヤといってもしなび過ぎ新鮮味に欠けるが。

ところで、事を始めるにあたっては何事もはじめが肝心である。新入生が大学生活をどのようにスタートしたら良いのかについては、専門のスタッフが懇切丁寧に指導してくれる。困ったことに新人学長は何をすればよいのか誰も教えてくれない。どなたに尋ねてもいささかの冷やかさで適当にあしらわれるばかり。例えば、ある教授いわく。いろいろな場所で挨拶することのみが学長の仕事なりと。これなどは親切に対応してくれた部類に入る。しかし考えてみれば挨拶も色気を出し、気の利いたことでもしゃべろうと思ったら、これもなかなか。ましてや説教口調にでもなったならば何をかいわんや。

悩んだ挙句の結論。とにかく事を始めるにあたって迷った場合は、初心に帰るべしとの格言を素直に実行すること。

大学は何によってなり立っているか。もちろん学生諸君が中心である。その学生はどこから来たか。もちろん高校である。その高校の内実を知っているか。知らない。よって高校を知るところを学長としての仕事始めにせん。

そこで諸君の母校を訪問し、校長先生にお会いして、生の現場の声を聞かせていただこうと思い立った。なぜならば、我が大学の学生諸君の出身地である高校こそ、我が大学の母体そのものではないのか。

結果として札幌、岩見沢、月形、恵庭、千歳、旭川の合計50校の高校を歴訪し各校長先生にお会いいただくことが出来た。校務ご多忙中にもかかわらずわざわざお時間を割いていただいた先生方に厚く御礼を申し上げたい。ありがたいことだが、殆どの訪問先で学んだこと数多く、なおかつ深い感銘を受けた。

例を挙げよう。高校の先生方の、授業、課外活業指導、生徒の個別面談指導、校務、地区レベル、道レベル全国レベル行事への参加、などなど、想像を絶する生徒指導への情熱を伴う過密業務である。さらに在学学生のみならず卒業生へのフォローもある。活発な同窓会、さらに情報を含む職業科での、高大教育内容の連続性の確保要望が多かったこと、遠隔

学習などでの連携を望んでいること、簿記や情報分野ですでに多数の資格得者がいること、資格レベルの高い生徒は大学での講義内容の低さに幻滅し、結果として大学を辞めていくこと、生徒は将来の自分自身を探しに大学に進学するが、大学はその環境を提供していないのではないのかということ、などなどである。そのほかに見過ごされがちではあるが、すべての高校で、廊下などで出会う生徒たちから、丁寧な挨拶があり爽やかな印象を受けたこと、廊下や校舎内が清潔感に満ちていたこと、部活結果としての成果としてのトロフィー、書画類がにぎやかに飾られ、図書類も整備され、いかにも我が学び舎の雰囲気濃厚であったこと、などなど枚挙に暇がない。感動した。

今回の高校訪問経験によって「立派に整ったハード、ソフト教育環境下では、多くの生徒・学生は、自主的に自己啓発する潜在能力を持つ」ことを改めて確信。日本の将来のために安心した。

さて、問題は我が大学であった。立派な高校教育環境を体験してきた生徒を受け入れ、生き残りをかけたグローバル化の中で、マイナス要因となる、高齢化・少子化社会を迎えながらも、次世代の科学立国を目指すわが国を支える人材を育成する、高等教育機関としての大学の果たすべき役割は大きい。その役割を果たすためにはどうすればよいのか。抽象論的議論はよそう。我が北海道情報大学においては、時代の先端を行くべく、具体的な意識の下に、学生を受け入れる大学そのものを構成する建物などを含むハード的側面、教員スタッフ構成、事務構成、カリキュラム、研究、クラブ活動などを含むソフト的側面などを、校長先生たちの我が大学への期待以上に、大学教育環境としてこれらを整備することが当然かつ火急か。

何が既整備で何が未整備か、必要データを十分に集めて分析し、IT時代の新しい大学のあり方に向けて、計画し行動に移すべきイノベーションのときか。問題はどのようにして、いつまでにこれらを実現するかである。ホヤホヤ学長の悩み、ボヤキと模索は続く。挨拶の仕事以外にこれらも学長の仕事か？

まもなく我が大学の中心になる新入生諸君、新人同士ともにがんばろう。

## 宿泊研修 — 新入生諸君に —

学生部長 長井 敏行



平成19年度の宿泊研修は、4月6日(金曜)と7日(土曜)に登別で実施されました。バス14台が用意され、参加総数は371名でした。

新入生諸君は、この宿泊研修でさまざまなことを学びました。まず、大学生活に必要なルールを学びました。第2には専攻した学科で何を学ぶべきかを知りました。第3に友人と知り合い、心を豊かにすることを学びました。いずれにしても、これらの根底には、自らを伸ばすことに意欲のある意志の持ち主であることが必要です。意欲のあるところ、必ず扉は開かれます。「思う念力岩をも通す(Where there is a will, there is a way)」という諺を今一度噛みしめてみる必要があるでしょう。

「世界がもし100人の村だったら」によれば、大学教育を受けている人は、世界にたったの1人しかいません。コンピュータを所有している人もたったの1人で、70人は文字が読めない。さらに50人が栄養失調で、1人が瀕死の状態にあります。

新入生諸君は、幸運児です。程度の差こそあれ、義務教育の上に高校教育を受け、さらに最高学府で学ぶことができるという諸条件に恵まれているからです。この幸運をさらに自分の手で推進していくことを願うばかりです。自分の手で推進を、と言っても初めのうちは、手ほどきが必要でしょう。そのための第1歩が宿泊研修です。

今年度の新入生の研修は、初めて登別で行われました。第一回目は日高青少年の家で、その後昨年まで定山溪で行われていました。登別の温泉に着くまで、およそ2時間、1台のバスには、新入生が25名程度、2名の教員と2年次以降の在学学生が同乗していました。

登別へ行く1台のバスのなかで、原先生と私は、復路車中、学生に他己紹介をしてもらおうということになりました。そのためには、自分たちが手本を示さなければなりません。ですが、その前に相手のことを知っている必要があります。いざ、面と向かって相手のことをどれだけ知っているかということ、これがなかなか頭に浮かばない。それもそのはずで、名前と人相が一致しているぐらい

のもので、実態は、まったく知らないに等しいのです。こういう機会でもなければその人の個性を含め、具体的に何を研究しているのかということは、皆目分かりません。まずは、往路車中、私から家族のことや専門について自己紹介をしました。次は、原先生の番です。

そのときのお話によると、原暉之先生の専門は、ロシア史、それも東ロシア史をご専門にしておられ、その他、環境問題、経済問題にも造詣が深いことが分かりました。たくさん作品の中から、ひとつだけ紹介をしておきます。ウラジオストク物語—ロシアとアジアが交わる街(三省堂)は、第11回アジア・太平洋賞特別賞(1999年)に輝いた先生の著書です。これらの一つ一つを通じて、原暉之先生のお人柄に触れることができたのは、私にとって、収穫のひとつでした。

学生が、知り合った人からどんな収穫を得たかは、想像する他ありません。この宿泊研修は、新入生諸君の間の友達探しの旅でもあります。授業が始まれば、とかく日常の生活に追われて、友人を作る機会が乏しいものです。友人をたくさん欲しい、という願いはあっても、ある程度の数の友人ができると、それ以降は、増えないということが往々にしてあります。人間関係は、それほど広がらないということになりがちです。勉学はもとより課外活動を通じて、共通の目的を追求する者の間には、温かい人間関係を創りあげることが不可欠でしょう。その役割を担っているのが、宿泊研修です。

幸い、宿泊研修は、無時終了しました。担任の先生には、熱心にクラス別ミーティングに取り組んでいただきました。また、先輩とのよろず相談は、大盛況でした。ただただ、「ありがとうございました」と言う他にことばが見つかりません。新入生諸君が大学生活の第一歩を順調に踏み出すことを願うばかりです。教員22名、職員6名、学生16名、ピアサポートルーム学習アドバイザー3名の37名のみな様には、厚くお礼を申し上げます。

## 平成19年度 入学式

4月4日(水)午前10時から、本学松尾記念館講堂において、新たに3年次編入の南京大学IT・日本語クラスの第1期生も加わり、平成19年度北海道情報大学入学式が行われました。

入学式の模様は、保護者室の201教室と204教室、

告辞を述べる嘉数学長



そして全国12か所にある通信教育部の各教育センターにも生中継され、多くの保護者や教職員に見守られる中、1,000名余りの新入生が、情報大学生として、新たな大学生活をスタートさせました。

嘉数学長は、「皆さんは、好むと好まざるとに係わらず、今後の21世紀のIT革命の真っ只中を生き抜いていかなければなりません。人生は、ある意味で戦いの連続です。いかにして、どのようにして、戦いを生き抜いたらよいのか。その方法はあるのか。これが、問題です。幸いにして、我が北海道情報大学は、コンピューター、ITの専門家はもちろんですが、人間力をつけるための教養科目を専門としている、熱意ある多くの教員を揃えています。ぜひ、これらを活用し、充実した青春時代を満喫していただきたい。21世紀の皆さんの時代は、狭い日本ばかりに目を向けることなく、世界を視野に入れることも当然となります。幸いなことに、中国からの留学生の皆さんも仲間



祝辞を述べる南京大学王外国語学院長(右)と通訳の汪副院長(左)

に加わりました。ぜひ相互交流を深め、若い皆さんを中心とした新しい時代の新しい中日友好の輪を

ここ北海道情報大学から広げてください」と新入生に激励の言葉を贈られました。

松尾理事長は、「デジタル技術やインターネットをはじめとするネットワーク技術など、情報通信技術の進歩は著しく、地球規模の情報化と国際化は、予想をはるかに上回るスピードで進展しています。21世紀はまさに、地球レベルの『情報革命』の時代であり、新入生諸君は新たな時代の創造に挑戦できる絶好の機会を得たのです。新入生諸君には、時代の方向性をしっかりと見据え、自信と誇りを持って、明日からの学生生活に若々しく、大胆に取り組み、悔いのない充実した4年間を過ごされることを切に希望いたします」と祝辞を述べられました。



祝辞を述べる松尾理事長

王外国語学院長は、「南京大学IT・日本語クラスの1期生が、貴大学の入学生としてここにいることに深い感慨を覚えています。北海道情報大学は、大きな可能性を持った学生を選抜し、社会に貢献できる多くの人材を立派に育成しています。教育は、人間の運命を変えることができます。北海道情報大学で教育を受けることは、皆様の将来をさらに輝かしいものにすることができると信じております。今後、私たちは北海道情報大学と、もっと広い分野でさらに多くの共同プロジェクトを展開することを期待いたします。また、これからの共同プロジェクトも、本日のような、うれしく思える果実を結ぶことを望んでいます」と祝辞を述べられました。

その後、新入生代表として、渡辺達也さん(情報メディア学科)が、南京大学編入学生代表として、張琬蓉さん(情報メディア学科3年)が、これからの学生生活の抱負について宣誓しました。

(総務課)

## 南京大学

# 施副学長、王外国語学院長が本学を訪問

3月下旬から4月上旬にかけて、南京大学から施副学長、王外国語学院院长らが相次いで来学されました。これは本学が南京大学と実施しているIT日本語クラス第1期生12名が、4月から本学情報メディア学部3年次に編入学するため来学したのにあわせて本学を訪問されたものです。

施副学長は、王外国語学院院務委員会主席、劉北京駐在所主任、楊継続教育学院副院長、汪外国語学院講師、陳外国語学院事務局主任の6名で来日され、一行のほとんどが北海道を訪れるのは初めてということもあって、到着早々まだ雪が残る北海道に感動していたようでした。

3月26日(月)に行われた学長表敬訪問では、施副学長は「南京大学が実施している2+2プロジェクト(南京大学で2年、海外の大学で2年修了し2つの学位を与えるプロジェクト)で提携校となったのは北海道情報大学が最初の大学であり、そのため南京大学は今回の編入学プロジェクトに大きな期待と関心を寄せています」と



述べられ、また王外国語学院院務委員会主席は、本編入学プロジェクトの成功の祈願、そして毎年夏に実施されている南京大学日本文化研修の御礼と、南京大学でのその評判の高さについて紹介されました。その後一行は東京に移動し、本社において理事長表敬訪問が行われました。



王外国語学院院长と汪外国語学院副院長は、4月4日(水)の入学式に来賓として出席され、入学生に対して祝辞の言葉を贈りました。式後に行われた学長表敬訪問には、王外国語学院院长と汪外国語副院長のほかにも南京大学からの編入学生12名も出席し、編入学生には日本語で自己紹介を行ってもらいました。編入学生は緊張しているせいもあり、日本語の挨拶はたどたどしくゆっくりとしていましたが、彼らの本学への留学に対する大きな期待は充分伝わるものでした。4月6日(金)の王外国語学院院长一行の帰国をもって、南京大学からの二つの訪問団の本学訪問は無事終了しました。(総務課)



## 自分の未来へ

情報メディア学科 准教授  
安田 光孝

情報メディア学科に着任いたしました安田です。3月までは、東京の会社で働いていたのですが、縁あって情報大にお世話になることになりました。ゆえに私にとって北海道も大学教員もはじめてになりますが、心機一転、新しい世界で尽力していきますので、学生諸君、今後ともよろしくお願いいたします。

私の経歴としては、早稲田大学で人間工学を学び、その間、桑沢デザイン研究所でプロダクトデザインを学びました。そのままそちらの道に進めばよかったのですが、大学時代にMacintoshというコンピュータに出会い、卒業後は、デジタル・メディアの世界に身を置くこととなります。6年ほどWebディレクターとして働いた後、米国にてMBA(経営管理学修士)及び、MSIT(経営情報技術学修士?)を取得し、帰国後、外資系コンサルティング会社、商社系のWebコンサルティング会社で働いて、今日に至ります。

信条は特になのですが、メリハリをつけること、何であっても柔軟に、なるべく楽しみながら行動すること、そして、常に未来に向けて発展していくことを心がけています。

学生の諸君に言いたいこと。元気がないです。大学は高校とは違って、やる気さえあれば自分のために勉強できる所です。特に3年生からは、その傾向が強くなります。なので、自分の未来に向かって、本気で勉強してもらいたいです。

好きなものは、クルマとキャンプ。嫌いなものは、レーズンとヒゲ。最近のはまりものは、ゼミ生です。OK?



## 医療情報の原点を みつめて

医療情報学科 准教授  
倉部 直子

今や医療者主体のパターナリズムが崩壊し患者中心の医療に大きく変わりつつあります。平成10年前後からはHIV訴訟など医療安全管理への社会的な関心の高まりも背景となって診療情報の提供や開示あるいは医療の質、EBMや関係臨床指標などの医療情勢、また一方では電子カルテの導入等、診療録や診療情報管理に深く関わる分野で著しい変化がみられるようになりました。診療情報管理士は専門職として日本では新しい分野ではありますが、その専門性は大きな可能性を含んでいると言えます。顧みますと江別市立病院の先代の院長岩田善輔先生がまだ大学で結核の研究に励まれていた当時から、研究の情報源である診療録の記載とその管理の重要性を強く感じていらっしやいました。岩田先生が40代の若さで院長に就任された際には北海道でいち早く診療情報管理の導入を計画し、当時日本では先駆的な聖路加国際病院診療記録管理室に何度も足を運ばれたと伺っています。当



## 着任にあたって

医療情報学科 准教授  
大川原 辰也

平成19年4月より、医療情報学科にてお世話になっております。北海道大学医学部を卒業後、北海道大学医学部附属病院(現：北海道大学病院)や市中病院にて研修・専門医獲得の後、北海道大学大学院医学研究科博士課程を修了し医学博士を取得、その後博士研究員として、また半分は内科・消化器科系の臨床専門医として活動してきました。縁ありましてこの度本学で教鞭をとらせていただくことになりました。研究テーマは「腸の免疫・炎症、そして発癌」についてですが、医学研究というもの

は厳しく業績としては英語論文以外は全く評価されない業界のため、細胞や動物を相手に格闘してはひたすら苦手なローマ字を並べる(?)作業で日々過ごしておりました。幸い、小生の研究は現在、海外の英文誌約20編程に掲載されようやく業界に少しずつ認知され始めましたがまだまだこれからと思います。現在もさらに切磋琢磨しております。最終的には医師であることも十分に活用し臨床研究を行い、研究テーマが実際の医療に役に立つようになることを願い本学の西平教授とも連携し発展させていきたいと思っております。またこれらのことは学生さん達を含め本学の皆様へ良い(?)刺激になれば、赴任しがいがあったと思っております。

こういった、本学にとっては少々変わり者(いや、これでも小生の業界では普通人です)が参りましたが、これも何かの御縁ということで宜しくお願いいたします。

# あ い さ つ

時診療録はまだドイツ語でも記載されていることが多く、学生時代から英文科専攻で第二外国語としてドイツ語を選択し、卒後は専攻科目を活かしたいと考えていた私は、岩田院長の診療情報管理への熱意と仕事の重要性に感動し、生涯をかけるきっかけとなりました。卒後直後から江別市立病院に診療情報管理士（厚生省研修後の名称は当時は病歴士）として採用され、以来今年3月まで実務者として歩んでまいりましたが、時代の要請に応えながら実務と卒後教育を両輪として資質の向上に努めてまいりましたが、その間には多くの人々と出会い、そして貴重な経験が得がたい財産となっています。診療情報管理士としての実務を離れ、今年4月からは本校で教鞭を取ることにりましたが、あらためて診療情報管理の原点である「情報源としての診療録」を見つめなおし、更に情報学として診療情報管理の在り方を考える機会となりました。診療情報管理学会や専門職能団体での卒後教育は今なお深く関わっておりますが、更に大学での教育に活かしつつ、診療情報管理を学ぼうとする新たな芽を育てて行くことに大きな喜びを感じております。暖かいご指導とご助言に従って歩み始めましたが、今後ともよろしく願い申し上げます。



## 着任にあたって

システム情報学科 講師  
佐野 秀行

4月1日付で経営情報学部に着任いたしました佐野秀行です。略歴は静岡県の出身で、早稲田大学教育学部教育学科教育学専修を卒業し、上智大学大学院文学研究科教育学専攻満期退学、現在まで大学の教育方法や評価、調査手法に関する研究をしております。

教職関連科目を担当し、経歴に教育の文字が沢山あり大学から教育について研究しているものの、学校や教育とは何かという素朴な問いが解消できずにいます。私にとって大学は職場であると同時に研究のフィールドでもあります。大学のあり方を科学的に考え、学生に積極的に働きかける方法を模索するという研究課題に加え、教育の課題としては「学生に真剣に問う」ということを掲げたいと思います。

音楽家のグレン・グールドは、優れた個性がどのように伝えられるかという問いに対して次のように答えました。「本当にためになるものというのは、自分自身を見つめることからのみ得られるのだらうと思います。ですから教師にできる最良のことは、それをそっとしておいてやることでしょうか。ただいくつかの質問を投げかけて、自分の演奏には自分の余地があるのだということ、そしてその解答は自分で見つけねばならないということを実感させるのです」

大学教育(あるいは評価)もまた然り。情報大の個性豊かな学生に対して少しでも良い問いを発することで、自律的な学習者としても学ぶことを希望しております。よろしく申し上げます。



## 着任にあたって

医療情報学科 講師  
五十嵐 哲也

今年度より着任しました、五十嵐哲也です。3月までは、厚生労働省の国立精神・神経センター精神保健研究所に在籍していました。また、中学校、大学、病院で、臨床心理士としてカウンセリングを行ってまいりました。そういうわけで、ここ十数年間は関東に住んでいましたが、今、北海道の自然と味覚がうれしいです。雪が少し怖いですが…。

さて、情報大では、主に心理学の講義を担当しながら、学生相談室の相談員をしています。心理学と聞くと、皆

さんはどんなイメージを持っていますか？ 臨床心理士をしていると、「人の心がすぐにわかるでしょ」話をすると考えが読まれそうで怖い」と言われることがあります。それはきっと、テレビなどの「心理テスト」のイメージが強いためではないかと思えます。でも、心理学は、人間の記憶のしくみや、人間関係のありよう、ストレスなどの精神的健康の問題等々、様々な人間のこころを科学的に解明しようとする学問です。大学生の間は「青年期」と言って、自分の進むべき道や、自分とは何者なのかをめぐって、大いに悩み苦しむ時代であると心理学では言われています。心理学の知識は、私たちの日々の生活に密接に結びついています。講義その他で心理学を伝えていくことによって、皆さんの自分探しに関わっていただけたらと思っています。まだ情報大の生活は始まったばかりなので、慣れていない点もいっぱいあるかと思いますが、どうぞよろしく申し上げます。

## 北海道情報大学

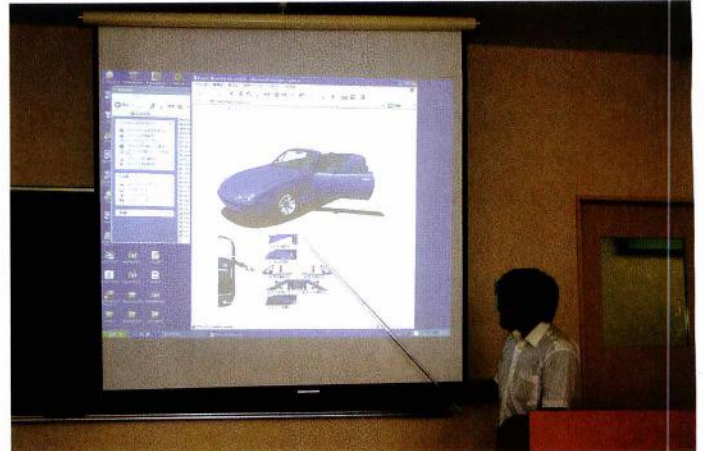
# 学術(給付)奨学生選考会【大学院生対象】を実施

大学院教務学生委員長 森澤 好臣

平成19年7月6日(金)本学114教室において、初の大学院生対象の学術(給付)奨学生選考会を実施しました。平成19年度は「Java 3Dを用いたオンライン自動車カタログの制作」というテーマで発表したメディア制作論プログラム2年の菅野光晴君を学術(給付)奨学生とすることに決定しました。

平成19年度の学術(給付)奨学生候補者は6名で、選考会では候補者にそれぞれ1人あたり10分の持ち時間で大学院入学後の研究内容や学内外での活動について発表してもらい、その後に10分間の審査員や傍聴の先生方からの厳しい質疑応答がなされました。奨学生選考では6人の審査員が4つの視点から評価を行い、総合評価が最も高かった学生を奨学生としています。

発表内容はさまざまで、プログラムを開発している学生やコンピュータグラフィックスや映像作品の制作を行っている学生と幅広い分野の研究内



容を聞くことができました。質疑応答では、厳しい質問に対して的確な応答をするなど、全ての場面において学生の成長が感じられる選考会でした。

ちなみに奨学金は、授業料の2分の1相当額(大学院の場合、400,000円)の給付です。



## 南京大学からIT・日本語クラス1期生が本学に編入学

中国南京大学と本学の間の共同事業として実施しているIT・日本語クラスの1期生が、平成19年4月、晴れて本学情報メディア学部の3年次に編入学しました。この共同事業は、南京大学と本学との協定に基づき、南京大学で2年間日本語とITの基礎を勉強し、その後本学情報メディア学部3年次に編入学。本学で2年間、専門科目を修めて本学の卒業と学士の学位を目指すというものです。

3年前の平成16年の秋、9月が新学期の中国で期待と不安を胸に南京大学のIT・日本語クラスの1期生となった学生20名のうち、様々な事情で8名の学生が途中断念し、最終的に日本留学の夢

を実現させたのは12名という困難な道のりでした。

2年間の南京大学での学習を終え、本学の編入学試験に合格した留学生達は平成19年3月25日に日本に入国し、日本での生活を始めました。最初は文化の違い、日本語の困難さにとまどっていた様子でしたが、今では授業に追われながらも日本での生活にも慣れてきて、ゼミの発表・合宿や、クラブに所属したり地域での活動に参加したりと、日本での生活にとけ込んでいます。

彼らは2年後の卒業目指して、現在猛勉強中です。学位を目指してがんばっている留学生に、皆様の暖かい支援をお願いいたします。

(総務課)



## 第4回日本e-Learning大賞 総務大臣賞受賞 「e-Learning演習環境PETA2によるプログラム言語教育の効果的実践」

通信教育部長 教授 外山 清高

本学通信教育部は、第4回日本e-Learning大賞（主催：[e-learning WORLD 2007]実行委員会、日本工業新聞社）に「e-Learning演習環境PETA2によるプログラム言語教育の効果的実践」で応募し、北海道内の大学としては初めて、総務大臣賞を受賞することができました。

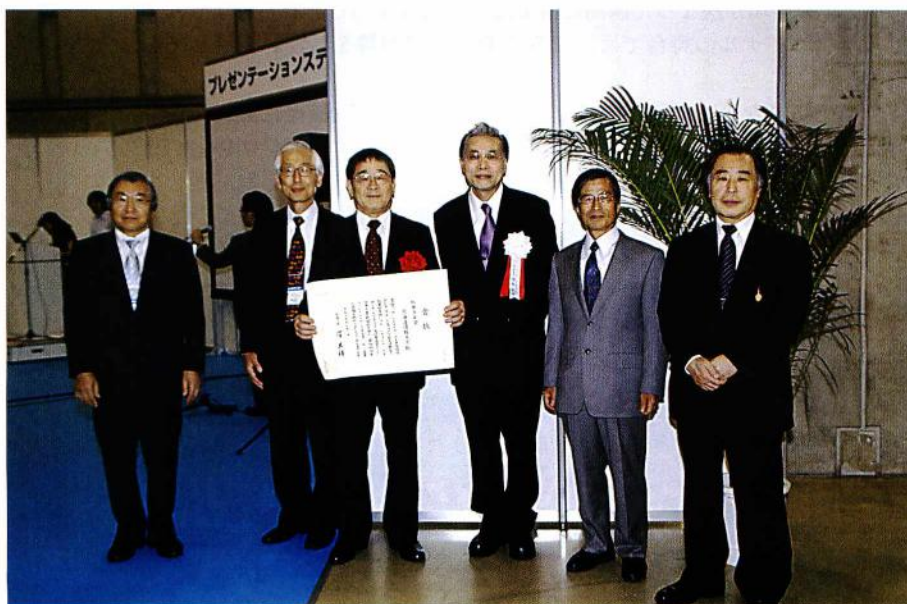
受賞理由は「従来の通信教育では知識教育に偏りがちな弱点を、スキル教育機能を備えたe-Learningの併用により、弱点を克服した実践例である。今回はIT教育の基礎能力であるプログラミングの基礎スキル教育においてコンパイラを共有する学習環境と高いレベルのメンタリングにより、個人の能力、学習制限に合った教育を実践して高い実績を残していることを評価した。さらにインターネットとWebを使ったシステム構成により、個人中心の学習を完成させ、さらに発展をする可能性を秘めたプロジェクトである」ということでした。

応募内容は、通信教育部のe-Learningシステム「無限大キャンパス」で実施している「プログラミング基礎(C言語演習)」です。従来e-Learningは、知識獲得型の学習には適していても、プログラミングのような演習型の学習には不向きで、対面授業でしか対応出来ませんでした。しかし、本学がプログラム言語演習環境として開発したPETA2(Programming Enhancer with Training Assistant version 2)は、受講者のマシン上にコンパイラ等の環境を準備することなく、Web上でプログラミング演習が可能となりました。PETA2では演習時に、学習者が作成したプログラムに対するコンパイルエラーを分かりやすくアドバイスし、課題の実行結果に対する高度な自動判定を行い、データベース化された学習者の演習履歴を基に、きめ細か

く指導を行うことで、対面授業でしか出来ないことをe-Learning上で実現しました。

本学通信教育部の「プログラミング基礎(C言語演習)」では、平成6年度からの通信衛星を利用した通信教育の実績やノウハウを基に、PETA2を用いて全ての演習が学習可能となっています。平成18年度は受講者の77%がe-Learningで受講していて、内71%が単位を修得しています。この修得率の高さは通信教育としては驚異的です。また、掲示板等には「応用編の追加」や「他の言語も開発してほしい」等の発言がみられ、学生満足度の高さがうかがえます。

本学通信教育では、平成18年度は、19科目(40単位)延べ2,804名の学生が学んでおり、受講者の受講完了率も当初75%でしたが、平成18年度には89%に向上しました。平成19年度は21科目(44単位)を開講しています。さらに、本学が文部科学省から平成17年度に委託を受けた現代GPのSCORM2004対応「学習者適応型e-Learningシステム」では、PETA2の考え方を取り入れて本学通学生のためのJava言語演習環境が開発され、言語習得に効果を上げています。



祝

第16回目となる今年のYOSAKOIソーラン祭りでは、地元・江別のチームと本学で構成する「江別まっことええ&北海道情報大学」がファイナル進出を果たし、5位(札幌市長賞)に入賞した。出場5回目にしての快挙である。さらにファッション部門では財団法人日本ファッション協会理事長賞も受賞、見事なダブル受賞となった。



大通8丁目ステージ

## YOSAKOIソーラン祭りを振り返って

経営情報学部 システム情報学科 4年

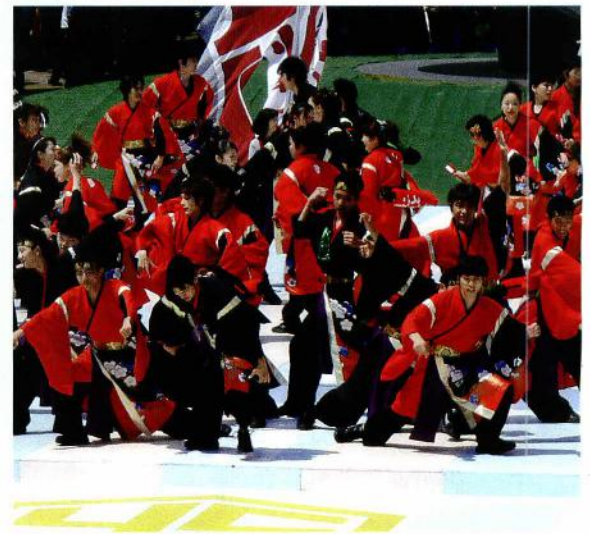
代表 菊地 栄輔

今年も江別まっことええ&北海道情報大学チームは、第16回YOSAKOIソーラン祭に参加して来ました。今年の本学のYOSAKOIソーランサークルの部員は、新入生10名を迎えることができ、総勢19名となりました。

6月8日~10日の期間中に参加したのですが、天気にも恵まれて太陽の下でたくさんの観客の人達に演舞を披露できて良かったです。そして今年は念願だったファイナル出場も果たし、その上参加341チーム中の5位に当たる札幌市長賞と、優れた衣装を着ているチームに贈られる(財)日本ファッション協会理事長賞のダブル受賞という最高の結果を残す事ができました。

ファイナルの出場が決まった瞬間に皆で流した涙はずっと忘れられません。憧れだったファイナルの舞台では、まるで夢の中で演舞をしている感じでした。

私は今年で卒業なので最後の本祭となりましたが、学生最後に最高の仲間に出会えた事、最高の思い出が作れた事に感謝したいです。大学関係者の皆様、本学学生の皆さん、サークルを創設してくれた先輩方、その他応援してくれた皆さんに感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。



ソーラン祭り 平成19年6月6日(水)～10日(日)

## ファイナルコンテスト第5位(札幌市長賞) (財)日本ファッション協会理事長賞



### 「YOSAKOIソーランサークル」の学長表彰について

YOSAKOIチーム顧問(医療情報学科 教授) 加納 邦光

2007年度YOSAKOIソーラン祭りで、「江別まっことええ&北海道情報大学」がみごと、第5位に入賞し、「札幌市長賞」を獲得した。それだけでなく、「財団法人日本ファッション協会理事長賞」も獲得し、ダブル受賞の栄誉を勝ち得た。昨年度もこのチームはセミファイナルに残り、18位だったとのことであるから、実力は以前から十分に備えてはいた。

しかし顧問の私も、10位以内に入るとはまったく予想していなかった。それが参加チーム341チームの中の第5位である。私のみならず、部外者の人であっても、「よくやった」と喝采を送る気持ちになることだろう。

「YOSAKOIソーラン祭り」に参加している他大学のチームには80人、100人という学生もいるなかで、このチームに所属する情報大の学生はわずか19人にしかすぎない。それだけになおのこと、学生諸君の健闘を称えずにはいられない。

この活躍を受けて、6月25日の昼休みに大講堂で、学長表彰とファイナル演舞のビデオ上映及び情報大学生によるライブ演舞が披露された。参加学生には飲み物とドーナツが配られ、会場は

嬉しい祝賀ムードに満たされた。

最近「YOSAKOIソーラン祭り」も、大規模になりすぎたきらいはある。お祭り開始直前の『北海道新聞』の夕刊で、タレントの田中嘉剛は商業主義がはびこるこの祭りを批判していた。「江別まっことええ&北海道情報大学」チームも衣装や音楽など、プロの手を借りてはいる。しかし他の上位入賞チームに比べると地味で、踊りの指導などはプロを煩わしてはいないとのことである。

情報大学は規模の小さい大学ではある。「江別まっことええ&北海道情報大学」チームの活躍は、世間一般には「情報」専門大学としてしか知られていない私たちの大学を、学業だけでなく、学生生活においても大いに青春を発散させている大学として、その名を北海道にとどまらず、全国に広めてくれたことであろう。

「YOSAKOIソーランサークル」の学生諸君、ダブル入賞、おめでとう。この入賞は「YOSAKOIソーラン祭り」のみならず、情報大学の歴史の一ページも大きく飾るものであり、君たちの活躍に心からの敬意と喝采を送る。

## 日本IBM最高顧問 北城恪太郎氏の講演会を開催

経営ネットワーク学科 教授 中村 忠之

7月19日に本学松尾記念講堂において日本IBM株式会社最高顧問であり(社)経済同友会終身幹事の北城恪太郎(きたしろかくたろう)氏をお招きして講演会を行いました。

北城氏は1967年、慶応義塾大学工学部を卒業し日本IBM(株)に入社され、入社後カリフォルニア大学大学院(バークレイ校)の修士課程を1972年に修了されています。

その後数々の要職を歴任されて、1993年には代表取締役社長に就任、1999年には代表取締役会長およびIBMアジア・パシフィック・プレジデントになられ、本年5月からは最高顧問になられています。経済同友会では2003年から本年4月までの4年間、代表幹事を務められ、退任後は終身幹事になられています。一方、産業界とITの学術分野を結びつける新しい学会として情報システム学会を立ち上げ、現在会長を勤められるなどIT産業界、経済界はもちろんのこと学術の分野でもオピニオンリーダーとして非常に著名な方です。

嘉数学長の挨拶の後、北城氏は『国際化時代に望まれる人材』というテーマで主に以下の三つの内容で話されました。

・日本経済の課題と国際競争力： 日本の課題として1)人口減少社会の到来 2)巨額な長期債務残高 3)国の国際競争力 4)低い労働生産性を上げ、特に、国際競争力では中国やインドの台頭が顕著であり、中国は数々の課題を抱えてはいるがGDPで2020年頃には日本を、2040年頃には米国を抜くのではないかというレポートを紹介された。日本は生産性では製造業は良いが第三次産業といわれるサービス業が米国の生産性の約7割しかない指摘され、これらに対し日本としては財政再建と成長戦略が必要であり、そのためのイノベーションの推進とこれを支える人材育成が重要であると強調された。

・日本が持続的に成長していくために： ここでは日本のイノベーションによる国際競争力の強化と世界の平和・安全と繁栄に向けた貢献が大事で

あること。また、企業が持続的に発展していくためには「カイゼン」や「匠の技」などの日本の優位性とイノベーションにより、業界の常識や社会の仕組みを変える必要性を説かれた。

・これからの社会で求められる人材像： 日本は敗戦国から経済大国・「課題先進国」へとなり、かつては欧米先進国に追いつくことが重要であったがこれからはイノベーションによつての成長が重要である。つまり、自ら考え問題・課題を見つけること、正解のない問題に取り組むこと、かつてない物を生むというイノベーションを実現する力が必要となる。これからの社会で求められる人材は「基礎学力」、「倫理感・社会規範性」、「社会人基礎力」を持った国際社会で活躍できるイノベーションを担える人材である。

経済同友会の調査\*では企業が大学卒の採用で重視する事項の第1位は「面接の結果」(222社)で以下、筆記試験の成績(5社)専攻分野(7社)大学での成績(0社)出身校(1社)と圧倒的に面接重視である。さらに、重視する能力としては「熱意・意欲」、「行動力・実行力」、「協調性」である。人材像のまとめとして北城氏は、「高い志、成し遂げる情熱」、「イノベーション(変革)を担うリーダー」、「国際社会での活躍」をあげられた。

結びとして北城氏は常に「あ・た・ま」:「明るく」「楽しく」「前向きに」取り組むことが大事であると述べられ、会場からの質問にも丁寧に答えられていました。

会場には熱心にメモを取る多くの学生や教職員の他に、高校の先生、近隣の方々に参加されるとともに全国のEDCグループの専門学校にも通信衛星を介して放映されました。

\*北城氏が使用したデータは経済同友会のサイトの2006年4月27日「企業の採用と教育に関するアンケート調査」結果に出ています。



## セイコーマート・井上常務の講演会を開催

7月3日、本学212教室において(株)セイコーマートの井上充常務取締役を招いて「コンビニエンスストア(CVS)と情報ネットワークとの関係」というテーマで公開講演会が行われました。

井上氏はセイコーマート入社後、2004年に取締役、2005年からは常務取締役として法務、広報、品質保証を統括され活躍されている方です。セイコーマートでの経験を基にした、まさに企業サイドからのCVSを知るという点で大変興味深い内容でもあり、多数の学生や教員が参加しました。

日本で一番最初のCVSとして1970年に札幌市北区に一号店を開店したセイコーマートが北海道を拠点に着々と実績を作っていったCVSの歴史から始まり、日本におけるCVSの現状について説明されました。次に、CVSを支えてきたものとして二点上げられていました。一つ目は年中無休、長時間営業、商品の高回転率など機能による優位性であり、二つ目にはチェーン店ではどこへ行っても同じようなサービスや商品を期待できるブランド化や共通性を上げられました。そしてこれらを支えてきたものが商品を常に安定して調達・供給す

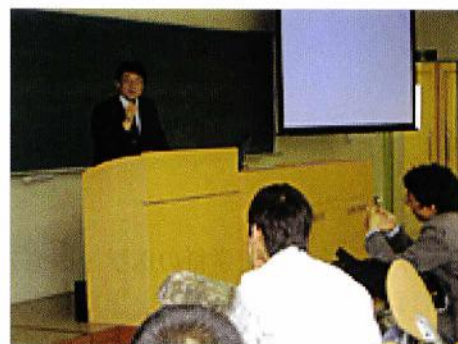
るための情報システムと物流であり、POSのデータが経営上非常に大事であると力説され

ていました。最後にある程度寡占化しているCVS業界で流通構造の再編成による新たなビジネスの展開やインターネットなどの新技術を使ったビジネスの可能性についても触れられました。

講演終了後は数名の学生から積極的な質問もあり、盛況のうちに終わりました。

日頃、何気なく利用しているCVSにもしっかりと戦略をベースに緻密な営業展開をしていることをあらためて学び、店舗や物流センターなどの現場とマネジメントの橋渡しとしての情報システムの重要性を再確認した講演会で大変意義深いものでした。

(中村忠之)



## 公開講座「日本経済と外交」

去る7月3日、本学において外務省副報道官谷口智彦氏の公開講座「日本経済と外交」が開催された。谷口氏は、東京大学法学部卒業後、「現代コリア」編集、東京精密勤務、「日経ビジネス」記者・同主任編集委員を経て、外務省入りした。

日経ビジネスではロンドン特派員、同社退社後は、アメリカのプリンストン大学ウッドロー・ウイルソン国際研究センターでフルブライト客員研究員をされるなど、国際経験も豊かな異色の経歴を持つ。当日は本学学生約70名、一般社会人の方約30名が聴講する、人気の講座となった。「外交とは、利益(国益)の極大化を図り、リスクの極小化を試みること」と定義され、経済活動との類似点から、一般の方や学生にも分かる日本外交の展開を解説された。リスクの考え方は保険の理論を応用してリスクマップを使って解説された。過去の冷戦時代のリスクマップと米同時多発テロ以降のリスクマップの違いから、現在の外交における

リスクとそのコストの説明は大変分かり易いもので、聴講された方も肯いておられた。

また国際的に維持しなければならない「公共財」という概念も、具体例を挙げて説明され、改めて外交の重要性を認識させられると同時に、普通の一般人が知っておかなければならない外交上の問題、特に日本が世界で果たしている役割の再認識を迫られた。

社会人の方、本学教員、学生からの質問も多く、質疑に30分以上を費やし、参加者の皆さんも大変満足され、公開講座を締めくくることが出来た。

(玉山和夫)



谷口智彦氏

# 医学・医療の教育研究を目的とした実験室を新設

医療情報学科 教授 西平 順

今春、医療情報学科の医学・医療分野における教育・研究の環境整備の一環として、通信教育棟に実験室が設置されました。本実験室は、遺伝子制御研究室と分子機能解析室の二つの実験室から構成されており、それぞれの部屋には、細胞培養装置や顕微鏡など細胞や組織の形態を観察する装置、また電気泳動装置、DNAシーケンサーなどのタンパク質や遺伝子の機能を解析する先端機器が

設置されています。

医学・医療は、ヒトの体のしくみや疾病についての教育・研究分野ですが、解剖学や生理学などの

基礎医学分野と、診断・治療を中心とする臨床医学に大別されます。本学の医療情報学科の学生は、基礎医学、臨床医学について幅広く学び、医療に携わる人材に必要な知識を吸収しなければなりません。そのためには、講義のみでは十分な教育効果は得られず、実習プロセスから実践的な知識を体得することが必要です。従って、本実験施設が設置され、実践的な教育が実施できる環境が整ったことの意義は極めて大きいと言えます。さらに、本学が先端的医学研究を遂行できる大学組織に生まれ変わることのインパクトは大であり、学内外への大きなメッセージの発信することになります。

本実験施設の利用した実習内容について簡単に紹介します。学生教育においては、“情報”をキーワードに遺伝子から細胞レベルまでの解析法について学べるカリキュラムが設けられています。例えば、画像解析による形態学的解析法、遺伝子情報に関するデータマイニングや連鎖解析などのバイオインフォマティクス、また細胞内における情報伝達機構など、本学の情報技術を生命科学に活用した実践プログラムを計画しています。学生

実習のための医療画像などコンテンツは、情報系を専門とする大学スタッフとの連携から、質の高い内容に仕上げたいと考えています。

医学研究については、分子生物学、免疫学、腫瘍学が主な対象分野であり、自己免疫疾患や癌などに関係する遺伝子情報の解析や生理活性物質の分子レベルでの機能解析が中心になります。これらの研究は、将来の大学院構想の基盤になるものであり、本学が大学院教育に重点を置いた高等教育機関として広く国内外にアピールできる良い機会であると考えています。

地域との連携も大学の大きな社会的責務であり、高齢者医療など社会的な関心が高い医療情報学領域の教育・研究基盤に充実を図らなければなりません。本学が位置する江別市は、地域医療や遠隔医療への関心も高いことから、近隣の病院と連携しながら地域医療モデル事業を立ち上げることを目指します。地域医療や遠隔医療に必要な一部の機器はすでに導入されており、遠隔医療プロジェクトを実施するうえで、今後さらに充実、拡大していく所存です。

最後になりますが、本実験施設は、本学における細胞や遺伝子からヒトの健康に至るまでの教育・研究の実施が可能な“ウェットラボ”であり、これまでの“ドライな情報系大学”のイメージから、より潤いのある多面的な教育・研究が可能な高等教育機関に生まれ変わる出発点の一つであり、今後さらなる努力の蓄積が求められています。



# フロンティアルームの紹介

医療情報学科 長尾 光悦

本学では、平成18年度採択された経済産業省「産学共同実践的IT教育訓練基盤強化事業」により、昨年度、「次世代IT人材育成を目的としたFDプログラムの開発」を実施しました。これは、教員が実際の企業へインターンシップに行き、研修を受け、大学院の講義として習得した実践的な技術を教授するというものです。このFDによって開講される講義は、演習を核とし、企業で実際に用いられる技術やノウハウを教授する超実践的なものです。大学院には、これまで講義室はありま

した。しかし、このような演習を中心とした講義を行うためには、多くの機材や演習を行うための場所が必要となります。そのため、平成19年度から、大学院において実践的教育訓練を実施するための実験室、通称フロンティアルームが完成し、大学院の講義を中心に利用されています。また、このフロンティアルームは大学院生が管理運営を行っています。その責任者である、大学院1年生、篠田智治君にフロンティアルームを紹介してもらいましょう。

## しの中のフロンティアルーム探検隊

こんにちは、大学院1年生の篠田です。今日は大学院を代表してフロンティアルームを紹介させていただきます。宜しくお願いします。

フロンティアルームは通信教育棟の中に設置されています。部屋の前にはプレートがあるので間違えることはないでしょう。



部屋の前にはプレートが付いています

扉を開け、一歩中に足を踏み入ると、そこはITパラダイス。沢山のIT機材が山のようにあります。まず、部屋の奥には大きなサーバがあります。それも一台や二台じゃありません。これらは、講義のためだけではなく、大学院生が研究のためにも活用しています。しかも、サーバが熱暴走しないようフロンティアルームにはクーラーが設置されているのです。これで、暑い夏でも快適に講義や研究ができます。嬉しい限りです。



沢山のサーバに驚きを隠せない篠田

サーバの反対側にはネットワーク機器がならんでいます。ネットワークがなくなると院生室からのアクセスもフロンティアルームから外に出ることも出来なくなります。ですから、管理責任者の私は安定運用に向けて日夜頑張っているのです。ま、たまに設定を間違えてしまうこともありますけど(笑)。

これらのサーバやネットワーク機材を使って、超実践的な講義が行われています。例えば、実践情報セキュリティシステム開発論では、受講者が守備側と攻撃側に別れて、ネットワーク攻撃とその阻止を行う演習など、これまでにはなかった内容の講義が行われています。

では、フロンティアルームについて大学院のトップバリュー、修士2



ネットワークを設定する篠田

年の一田陽平氏、通称一田様にインタビューしてみました。

篠「まずは、今年、院生みんなが待ち望んで実験室が出来た感想をお願いします。」

一「今までは、院生講義室やメディアスタジオ等に機材を置かせてもらい、講義がない時間に片身の狭い思いで作業していましたが、実験専用の教室ができた事で思う存分研究ができるようになって嬉しいです。」

篠「実際に使ってみての感想はいかがですか？」



フロンティアルームについて熱く語る一田様

一「僕の研究では、マシンを複数台利用する場合があります。現在は、フロンティアルームに利用可能なマシンが何十台もありますので、スムーズに作業できるため大変便利です。施設を作ってくれた大学に感謝しています。」

篠「なるほど、これで今まで以上の研究成果がでること間違いなしですね。僕も頑張れば一田様のような優秀な大学院生になれるでしょうか？」

一「そうだね。難しいけど、出来ないことじゃない。でも、それには日々努力すること、そして、決して諦めないことが重要だ！ そうすれば君も必ず手に出来るよ、VICTORYをね！」

篠「深いお言葉有難うございました。」

情報大大学院生も大きな期待を寄せているフロンティアルームの魅力はみなさんに伝わったでしょうか。この部屋からフロンティアスピリットならぬ情報大スピリットを持った大学院生が誕生していくことを願ってやみません。



FDIによる開講講義「実践情報セキュリティシステム」の講義風景



情報大スピリットを前理事長に誓う篠田

# 現代GPプロジェクト 正規授業での展開が始まる

## 1. 現代GPとは

現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)とは、文部科学省が、国公立大学を通じて学生教育の質の向上などの大学教育改革の取組を選定し、財政的なサポートや幅広い情報提供を行い、各大学などの教育改革の取組を推進するために実施しているものです。本学のプロジェクトは、平成17年度に509件の申請の中から選定されたもので、最終年度を迎えています。

## 2. 本プロジェクトのミッション

本プロジェクトの目標は、「ITによるIT人材育成フレームの構築」です。具体的には、3つのミッションを掲げています。

- ① 学習者適応型e-Learningシステムの構築
- ② SCORMに基づくIT教材の開発
- ③ ①、②の正規授業での展開

わが国の大学では、多様な学生の増加により、個々の学生に適応した新しい教育システムが求められています。「学習者適応型e-Learningシステム(POLITE)」は、その解決策の1つとして本学が、わが国で初めて開発したものです。SCORMとは、教材開発の世界標準規格で、その仕様に基づいて教材が開発されています。昨年度、POLITEを一部の正規授業で使用し、評価した結果、従来の対面授業より同等またはそれ以上の効果を確認することができました。そこで、この4月から「プログラム言語I」と「情報システム学概論I」で、POLITEによる正規授業が展開されました。

## 3. 学生からの声

アンケートの結果から、その一部を紹介します。

- ・私語や周りの音がないので、集中して学ぶことができた。

- ・「よくある質問」機能を使って、分からないことを簡単に調べられるので、授業の内容が理解しやすかった。
- ・先生と一対一なので、自分のペースとレベルで進められた。
- ・家でも学習できるので、非常に助かった。
- ・他の科目もこのシステムで学びたい。

また、学習の履歴データから、朝の7時半から実習室で学んだり、自宅で夜遅くまで学んでいる熱心な学生がいることも分かりました。

## 4. 国際会議での発表

6月25日から29日まで、バンクーバー(カナダ)で開催されたe-Learning関係の国際会議ED-MEDIA2007に、富士、谷川、山北、藤井(敬称略)が出席し、本システムの内容を二つのセッションで発表しました。学習者適応型e-Learningシステムとして先進的であり、高い関心を持たれました。本プロジェクトは、本学の教職員のみならず、学生、(株)SCC等産学連携の成果物です。今後は、システムの改善、教材作成、著作権処理対応等に取り組んでいく計画です。(現代GP開発室)

POLITEによる正規授業の様子





# 海外共同研究について

情報メディア学科 教授 高野 俊夫

このたび、カナダのカルガリー大学社会科学部人類学科とのBSE(牛海綿状脳症)に関する共同研究を行うことになりましたので、概要をお知らせ致します。

今年3月下旬、かつて1980年代にともにトロント大学人類学部院生として交流のあったアラン・スマート教授とジョーズィ・スマート教授(ともにカルガリー大学)より一通のeメールが届きました。

北海道と姉妹州でもあるカナダ・アルバータ州では、現在BSEの発生による牛肉の禁輸が農民の死活問題となっており、カナダ産牛肉の輸出先の一つである日本の関連資料を集めてほしいことと、日本の行政機関・畜産農家・消費者団体へのインタビューに協力してもらいたいということが書かれていました。研究プロジェクトのタイトルは、「アルバータ州におけるTSEの社会的・経済的インパクト」となっており、研究チームはカナダのカルガリー・アルバータ・レスブリッジ大学などの研究者で構成されています。

メールを読みながら、2005年9月にカルガリー大学を訪れたときのことを思い出しました。スマート夫妻とは、20数年ぶりの再会でした。

残雪を冠した峻険なロッキー山脈を越え、眼下に麦畑のパッチワークを見ながら初めてたどり着いたカルガリーの空港では、滑走路のまわりの緑地に牧草のロールが無造作に転がっていました。農業が盛んな土地柄であることを象徴しているとしても、いかにも牧歌的風景なのに驚かされました。その一方で、石油開発ブームのため、人口は州都エドモントンを抜いて100万人を超えています。空港からの道すがら、果てしなく広がる大平原の中に、未来都市のように空中回廊で結ばれた高層ビル群が現れてきます。冬には、-40度Cにもなるので、回廊は、その備えなのです。

さて、このプロジェクトが飛び込んできたとき、学部生時代に恩師に紹介していただいた『肉食の思想』(鱈田豊之著、中公新書、1966年)のことが頭をよぎりました。肉食への依存がヨーロッパの思想形成にいかに影響したかをヨーロッパ中世史



カルガリー大学社会科学部

の専門家の目から論じたものです。あらためて読み返してみると、いわゆる京都岳(学)派の先生たちの著作とともに、この本も筆者の文化人類学への転進を促したのかと懐かしい思いがしたものです。本学で現在担当中の文化人類学の講義でも世界の衣食住を扱っており、このプロジェクトの研究テーマは、最近盛んな医療人類学の分野に属するものなので、筆者にとっても今後きわめて役立つものと思われまふ。

ところで、カルガリー近郊に、有名なインディアンの遺跡ヘッド・スマッシュト・イン・バッファロー・ジャンプ(1981年世界遺産に指定)があります。この遺跡は、約5700年にわたって平原インディアンがバッファローの追い込み猟をした結果、断崖の下に10メートルものバッファローの骨が積み重なったものです。かつては魚食民族といわれたわれわれ日本人も含めて、世界中で肉食化が進み、食肉の増産を図るため、本来草食動物の牛に、それも同類の肉骨粉を与えた結果が、BSEを蔓延させ、人間にはクロイツフェルト・ヤコブ病をもたらしたものだとする、今や断崖に立たされているのは人間のほうなのかもしれません……。

(注) TSE…伝染性(伝達性)海綿状脳症の略。BSEを含めた羊・鹿の同様の病気の他、ヒトのクロイツフェルト・ヤコブ病などの総称。

(付記) 本プロジェクトの成果については、別稿と致したいと思います。

# 南京大学の日本文化研修一行が来学

今回で3回目となる南京大学からの日本文化研修は、7月6日から15日までの10日間、大阪、東京、奈良、京都、東京、北海道を回る計画で、外国語学院汪平副院長を団長に、学生18名、引率者3名、計21名が参加しました。

一行は、7月6日の昼に関西空港に到着し、大阪城、東大寺を見学。翌日は、清水寺、三十三間堂、龍安寺、金閣寺で多くの文化遺産を見学、また、日本の伝統芸能である琴、能、狂言、日本舞踊、文楽などを鑑賞しました。8日は東京に移り、東京大学等を見学、翌9日は、本学園理事長を表敬訪問し、午後からは旭川に移動しました。翌日、

旭岳岨の池付近をハイキングし、午後から望岳台付近を散策、吹上温泉で、学生達にとって初めての露天風呂を体験するなど、

北海道の雄大な自然に触れました。

11日は札幌に移動し、12日には本学を訪れ、学内での諸行事に臨みました。学長表敬訪問では、今回はオール南京大学の70数名の応募者の中から

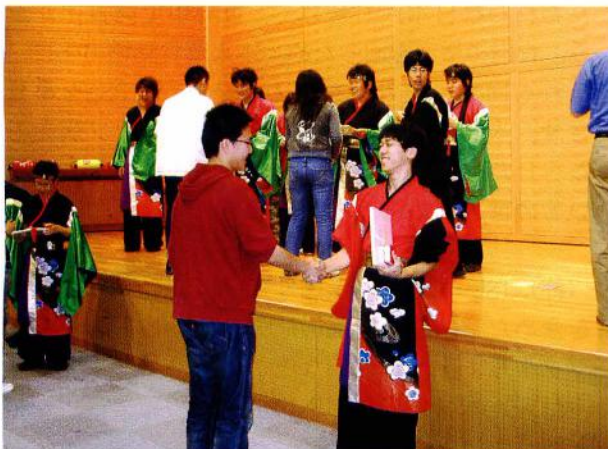


選ばれた学生達だけに日本語で自己紹介を行い「日本の景色は美しい。憧れの日本に来ることができて嬉しい。今回の研修で、自分の目で見て、聞いて、実際に感じたことを、これからも忘れず、帰国してから友人に伝えたい」などと感想を述べました。

その後、キャンパスを見学し、北海道情報技術研究所を訪問。松尾記念館講堂で本学よさこいチームによる演舞を鑑賞し、玉置重俊教授による特別講義「日本文化の特色について」を聴講した後、本学学生達と体育館でスポーツ交流などを行いました。

参加者の中には、IT日本語クラスで学び、来年度本学に編入学する者もあり、今年4月に南京大学から編入学した先輩達と再会し、留学の状況などを聞く機会もありました。

一行は、13日から北海道開拓記念館で北海道の歴史やアイヌ民族の文化について学んだ後、小樽、洞爺湖などを観光し、15日に新千歳空港から無事帰国しました。  
(総務課)



## 平成19年度情報通信月間行事

### 「作ってみよう！ みんなの江別のコマーシャル」

平成19年6月2日(土)、北海道らしいさわやかなお天気の中、平成19年度情報通信月間行事「作ってみよう！ みんなの江別のコマーシャル」が実施されました。今年、インターネット



本学で編集作業

テレビを運営している地元のNPO法人「市民活動センター・あい」との共同で実施。参加者にそれぞれ江別の広報スポットをビデオで撮影してもらい、素材を元にそれぞれが編集して、1分程度の江別のコマーシャルを作っていました。

当日、まずは市民活動センター・あい集合。いくつか撮影ポイントを選び出しておいたのですが、希望をとった結果、撮影に出かけたのは江別市郊外の中津湖という湖でした。ここは一般市民の方にも、これまであまり知られていなかったスポットで、将来の観光資源を目指して、現在ボランティアがゴミ拾いなどを行い、手を入れている場所

です。地元在住であるほとんどの参加者が初めて訪れることもあって、江別市の魅力の再発見につながり、地元の魅力を発信していこうという興味をいっそう喚起することができました。

湖には、釣りを楽しむ人が思いの外大勢いて、釣果を披露してくださいました。また湖畔では、波の音や鳥のさえずりなどが聞こえ、心和むひとときでした。撮影の方は順調に進み、昼食後は本学で編集作業を行いました。参加者は、編集の仕方について説明を受けた後、思い思いの作品を仕上げていました。



中津湖での撮影の様子

完成した作品は、権利関係を確認した後、市民活動センター・あい運営するインターネットテレビ「えべつ(i)'s TV」([http://www.ebetsu-ai.tv/us\\_menu.do](http://www.ebetsu-ai.tv/us_menu.do))で放映する予定です。是非チェックしてみてください。

(総務課)

## 江別高校生インターンシップを終えて

去る6月14日、15日、北海道情報大学図書館において江別高校3年生8名を迎え、インターンシップが実施されました。

図書館における就業体験として実施されたのは、以下のプログラムです。

### 1. カウンター業務

図書館内の案内から始まり、図書の貸出に必要な利用者カードを作成しました。高校生にとっては、カウンターでの図書の貸出返却業務が最も身近な図書館業務だったようです。

### 2. 図書・雑誌の登録・整理業務

1冊の図書・雑誌の登録から配架までを実際の業務を通して説明しました。整理業務では、図書はその表面をビニールコーティングするブッカーという作業をし、雑誌は新刊にビニールカバーをつけて配架をしました。

### 3. 図書館業務に関するビデオ教材

今回のインターンシップでは説明しきれないものもあるため、図書館業務に関するビデオ教材を用意しました。図書館の仕事をよりイメージしやすかったのではないかと思います。

### 4. 検索実習(日経テレコン・OPAC)

OPACによる図書の検索のほか、様々な情報の検索が可能な日経テレコンを使用して、新聞・雑誌の記事検索や、人物に関する検索実習を行いました。

### 5. 図書・DVDの選定実習

高校生によるDVD・図書の選定実習を行いました。より大学生に近い年代の高校生が何を選ぶのかという点は大変興味深く、実習ではありましたが今後の選定のための参考材料となりそうです。(図書館事務室)

### ～ 高校生の感想 ～

- ・図書館の裏側を知れた！という感じで楽しかった。
- ・図書館でよく見る(貸出)作業を実際に体験して楽しかった。
- ・図書館の棚に図書を置くまでにとっても長い道のりがあることに驚いた。
- ・本の整理の際は番号を見るので、目が疲れた。こんなことを1カ月に何回しているんだろうと感心した。
- ・実際の作業(=仕事)をするという普段出来ないことをさせてもらうのは、自分にとってとてもプラスになった。

## ◇平成19年度キャリアガイダンス講座の実施について

7月6日(金)16:15から松尾記念館講堂において「1年生のためのキャリアガイダンス講座ー社会へのアプローチ」第1回目「先輩からのアドバイス」が実施されました。

「キャリアガイダンス講座」とは、キャリア教育の一環として、1年生の必修科目である、「ピギナズセミナーⅠ」の授業を振り替えて行うもので、「先輩からのアドバイス」は、身近な存在の卒業生から、職業観や学生時代に力を入れておけば良かったことなどを話してもらうことによって、早い時期から進路に対する意識付けと実社会の厳しさを植え付けようとするものです。

この講座は平成17年度から実施され、本年度で3回目となりました。毎回、卒業生3～4名に来ていただき講演を行っています。

本年度は次の3名の卒業生がそれぞれのテーマで自分の体験などをもとに、各々15～20分程度、後輩へのアドバイスとなる講演を行いました。

- ・大谷 和正さん 1期生  
(経営情報学部 経営学科 平成5年3月卒業)  
テーマ 「システムエンジニアの仕事」
- ・畑中 力さん 3期生  
(経営情報学部 情報学卒 平成7年3月卒業)  
テーマ 社会人になる心構えについて『不利にならないために』
- ・佐々木 恵さん 5期生  
(経営情報学部 情報学科 平成9年3月卒業)

テーマ 「職業生活設計」

皆さんそれぞれ現在の仕事・生活の中から、社会人になったら必要となる知識・技術や学生時代に勉強・体験しておけばよかったことなどについて話をしてくれました。

講演後は、司会の橋本登代子さん(元STVアナウンサー)のコーディネートによる、質疑応答の時間となりました。橋本さんが客席の中に入って軽妙なやり取りで学生から質問を聞いて回り、その質問に講演者が答えていくという形で進みました。

学生は皆、先輩の言葉を一言も聞き漏らすまいとするかのように熱心にメモを取り、真剣な表情で講演を聞いていました。

(教務課)



## ◇北海道野幌高等学校との高大連携授業について

昨年度から始まった北海道野幌高等学校との高大連携授業は、北海道野幌高等学校と本学との間で高大連携に関する協定書を取り交わし、その協定書に基づき、北海道野幌高等学校の3年生の希望する生徒が、本学の特別科目等履修生となり、1年間、特定の科目を本学の教室で受講するものです。

本年度は、男子33名、女子2名の計35名の生徒がこの高大連携授業の受講を希望し、毎週本学に来て授業を受けています。昨年度の受講生は7

名でしたので、本年度は受講生が大幅に増えたこととなります。

受講科目は、前期は全員共通の科目で「コンピュータリテラシー」を受講し、後期は「Web技術演習」、「マルチメディア入門」の2科目から1科目を選択して受講することとなります。いずれの科目も実習室でのコンピュータ実習を中心に授業を行うこととなっており、担当教員及び数名のチュードントアシスタント(学生補助員)の指導のもと授業を進めていきます。

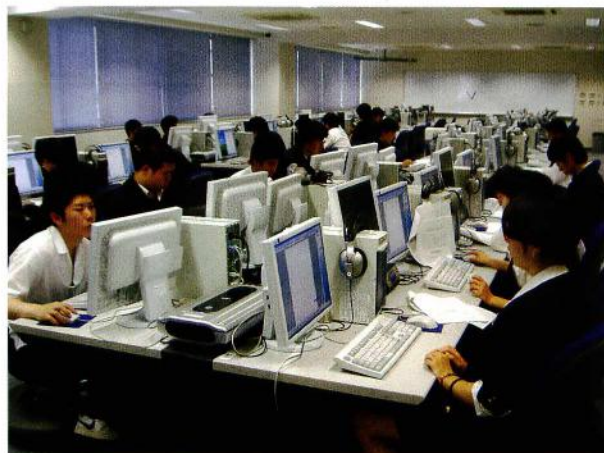
前期に行われた「コンピュータリテラシー」は、コンピュータの使い方について学ぶ科目で、Photoshop、Illustrator、Word、Excelなどのアプリケーションソフトの使い方、情報倫理に関する講義、PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成、インターネットによる情報検索、パソコンの組み立てなど、コンピュータを使う上での多岐にわたる知識・技術を実際にコンピュータに触れながら学んでいました。

これらの科目は、試験等に合格することで単位の修得となります。

また、高大連携授業を受講している生徒が、本学に入学した場合は、この高大連携授業で修得した単位は、すでに修得した単位として単位認定さ

れることとなります。

(教務課)



## ◇ピアサポートルーム運営時間の変更について

ピアサポートルームは、学業を中心にいろいろな悩みを抱えている学生が、気軽に相談できる窓口として大学院生や学部4年生が相談員(学習アドバイザー)となり、個々の学生が困っていることに対して教員に協力しながら問題解決を手助けするものです。

平成17年度後期から運用を開始し、本年度で3年目となります。

ピアサポートルームの場所は、少しわかりづらいのですが、本部棟の校舎棟1号館からの渡り廊下横の階段を3階まで上ったすぐ横にあります。

前述のとおり、学習アドバイザーが交代で、主に学習内容についての相談を補講期間を除く授業実施日に受け付けていますが、本年度は相談の時間帯が少し変更になっていますのでご案内します。

### 《相談時間》

①12:00~13:30 90分間

②16:15~17:45 90分間

※実施期間：前期・後期それぞれの授業実施日(補講期間を除く)

### 《主な相談内容》

○学習の進め方(卒業単位の修得を含む)について

○コンピュータやプログラミングに関することについて

- 教務関係の各種取り決め事項について
- レポート課題のまとめ方、定期試験の準備の仕方について
- 学業や学生生活に関する手続きや相談窓口について
- その他

前期の実施はすでに終了していますが、後期はまた授業実施期間(9月18日(火)~1月15日(火))にオープンしますので、履修・授業・実習などで相談のある

方は、一度訪ねてみてください。  
(教務課)



## 情報センターより ～新実習システムについて～

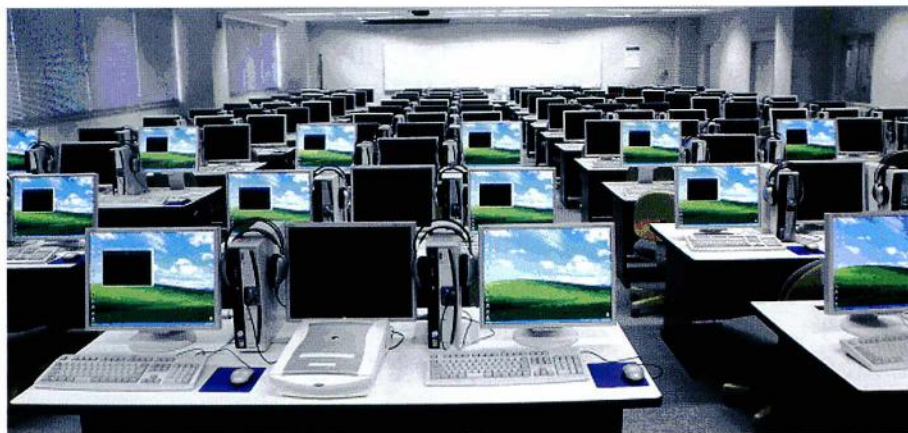
平成19年4月に実習システムを更新し、大きく以下の3点が変わりました。

### ①実習室システム

新システムは、ネットワークブート型シンクライアントシステムで、サーバ室の管理サーバにあるOSを各教室のパソコンが利用するもので、パソコンのハードディスクにはOSが入っていません。各パソコンはネットワーク経由でサーバからOSやアプリケーションソフトをメモリに読み込み実行します。これにより、均質な利用環境が構築でき、パソコンの起動時間も短縮されました。また、LDAPサーバの導入により、パソコン起動時・メールシステム・実習用WEBシステムへのログインが統一され、同じユーザ名・パスワードを利用できるようになりました。

### ②実習室クライアントPC

松尾記念館2階の2実習室、計161台を、最新のCPUであるIntel社Core2Duo(CPUを2個内蔵)搭載の高速なパソコンに更新しました。これにより実習



実習室2

用PCが320台、自習用PCが30台、ゼミ室・卒研室等100台の合計約450台の実習設備になりました。

### ③メールシステム

メールサーバをIMAP化し、学外からでもメールをアクセスできるようにしました。学生用のメールソフトとしてスクイレルメールを用意し、WEBブラウザがあれば、学内外問わず何処のPCからでもメールをアクセスすることが可能です。

本学の実習システムは時代の先を見て進化して行きます。これからの発展をご期待下さい。



画像メディア実習室

# 学 生 サ ポ ー ト セ ン タ ー よ り

## 就職活動中における親御さんの手助け

現在の就職活動のキーワードは「早期化」、「長期化」と言えます。実際、就職活動のスタートは3年生から始めるのが常識となっており、本学の4年生も7月25日現在で既に60%以上の学生が内定をもらい年々早期化が進んでいると言えます。また、良い人材であれば時期にこだわらず採用する通年採用を行う企業が増えてきており、新聞紙上等では売り手市場と学生が就職に有利のように言われていますが企業の採用基準は決して低くはなっていません。学生の内定を得る確率は1割(10社受験して1社内定をもらえる)とのデータがあり、このような事から就職活動は長期戦を覚悟しなければなりません。そうすると必然的に学生は多大なストレスを抱えたまま厳しい就職活動を余儀なくされることとなります。

このような状況の中、われわれ学生サポートセンター事務室のスタッフは学生の悩みを解決すべくアドバイスをしますが、全てをフォローすることは難しいと言えます。親御さんにのみ相談できること、聞いてみたいことを学生は持っています。「もう成人なのだから就職に関しては全て任せる」ということではなく、ぜひ手助けをしてあげてください。

では、どのような手助けが必要かということですが、就職活動にはある程度の費用が必要となるため金銭的な援助もありますが、何よりも精神的な援助が必要であると思います。例えばお子さんが過去に経験したこと、悩んだこと、喜んだこと、得意なことなどを話すことにより就職活動における自己分析を行うことが出来ます。この自己分析を行うことにより、業界・職種選択はもとより、自分のPRポイントを探すことに役立ち、ひいては履歴書・エントリーシートの作成、面接時の対策につながります。

ぜひ就職活動をすべて子ども任せにはしないで、適切な時期に適切な協力、援助をしてあげてください。ただし、気をつけなければならないのは親の考えを全て押しつけないということ、そして適

切なアドバイスができるよう現在の就職活動がどのような時期にスタートし、ピークはどの辺りか、そして今は何をしなければならない時期かというスケジュールを認識することだと思います。現在の就職活動は一昔前とは随分様変わりしていますので、ご不明な点等については何なりと学生サポートセンター事務室にお問い合わせ下さい。

## 保護者の会役員会

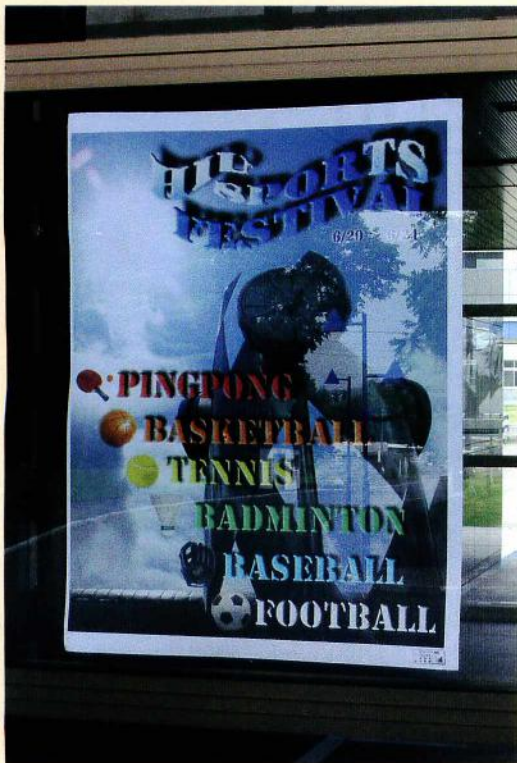
平成19年度第1回北海道情報大学保護者の会役員会を5月31日(木)「あおい」において開催いたしました。

まず最初に原副学長から保護者の会に対するお礼を含め挨拶があった後、平成19年度新規役員候補者5名の推薦がなされ、全員が異議なく承認されました。次いで大学からの現況報告として、本学の改革及び意識改革を積極的に行うこと、今年度5月28日付で文部科学省に改組・改編の申請をしたこと、eラーニング・現代GPについて、国際交流として今年度もアメリカカリフォルニア大学、中国南京大学への短期留学を実施すること、本年度南京大学から12名の留学生が入学したこと及び就職部長から平成18年度卒業生の就職率、平成19年度の就職指導スケジュールについて、学生サポートセンター事務室からは、平成19年度の学生生活指導の行事についてなどの報告がなされました。

役員会終了後の懇親会においては、保護者の会役員と本学出席者との間で、学生生活、就職の状況等に関して率直な話し合いがなされました。

本学では学生の教育、また学生生活が一層充実したものになるよう努めて参りたいと考えております。今後とも保護者の皆様にはご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

ご出席いただきました役員の皆様には、ご多忙にも係わらずお越しいただいたことを感謝いたします。



# 体育祭

6月20日・21日

経営情報学部 経営ネットワーク学科  
体育祭委員長 内藤 慧

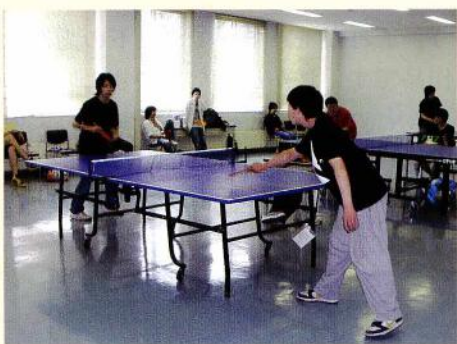
6月20日～21日の二日間にわたり体育祭が行われました。実行委員会は毎年体育祭を運営しています。4月末より準備をはじめ、種目の決定・エントリー受付・トーナメント作成・交流会の必要物品の発注まで広範囲にわたって準備をしています。

当日は晴天とは、いきませんでした。雨が降ることも無く、熱中症にかかる人も出ず、無事に体育祭を終える事が出来ました。体育祭終了後に行われた交流会では、昨年の人数よりも70人増えるという大盛況でした。しかし、想定人数よりも上回る来客で、途中でオニギリが足りなくなってしまう事態がおきました。来年は、現3年生に変わる後継者がより良い体育祭にしてくれるでしょう。

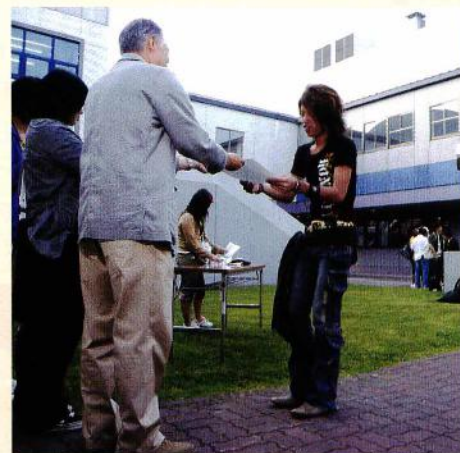




## 第17回



競技終了後、入賞者に長井学生部長より賞状が贈られました。また恒例の交流会では大勢の学生が参加、ひと時の思い出を刻みました。



この大学へ来た当初は通信教育部の講義のみを担当していたため、通学の学生と初めて接するようになったのがゼミナールでした。CGに興味を持った学生が集まってくれましたが、最初の頃は原理や仕組みにポイントを置いていたので、卒論は「何かプログラムを作成しよう」という目標の下、ゲームやレイトレーシングのプログラミングに励みました。情報メディア学部開設の頃から、実習室のCG系ソフトが充実し、また、学生の興味もプログラミングよりもCG作品制作に移行してきたため、最近の卒論はShade等を用いた3DCGの動画・静止画の作成とFlashを用いたアニメーションの作成が主流になっています。

ゼミ開始当初から重視しているのは、自分で考える・調べるといことです。これから社会に行く学生にとって、こういう姿勢を身に着けること、そして自分でやり遂げたという達成感を得ることは、大きな財産になってくれるからです。ゼミの時間に様々な取っ掛かりを与えることはしますが、それを発展させ、卒論のテーマを考え、

作品を纏め上げていく過程は、各学生の自主性に任せています。「自分でやる」

ということに慣れていない学生は、卒論作品になかなか着手できなかつたりすることもあります。最後はこちらが驚くほどの成長を見せてくれます。3年のゼミスタート時には考えられなかった程「大化け」する学生もあり、ゼミを担当する上での大きな楽しみとなっています。

今まではゼミ内であまり縦の繋がりがなかったのですが、今年は4年生の数名が自主的に3年生のゼミに出席し、かなり発破をかけてくれました。おかげで、3年生のプレゼンテーション能力が劇的に向上しました。今年も「大化け」を期待しています。(ただし、自分が努力しなければ何も起きないことをお忘れなく！)



## 高井ゼミ

担任 高井 那美

## 向田ゼミ

担任 向田 茂

# ゼミ

# 紹介

向田ゼミでは、「時間と空間を操る！！」をテーマに、CG技術や画像処理技術を駆使しながら各人がそれぞれのテーマに取り組んでいます。使える道具は、モーションキャプチャに、3次元デジタルタイザ、3dsMax、さらにはコンパイラ、つまり何でも使えます。そして、やりたいことをやって



もらう。これがモットーです。下の画像は現ゼミ生の作品です。しかし、ただやりたいことだけをしているというわけではありません。その結果が誰かの役にたつということが前提です。それを常に考えながら取り組んでもらっています。



情報大学にやっと生まれました「日中異文化研究会」です。たいそうな名前ですが、目的はわかりやすいです。「中国と交流しよう！」です。

情報大学には今、中国人留学生がたくさん来ています。しかし、学科や学年によっては、会話をするどころか廊下ですれ違う機会さえないのです。なんとたことでしょうか。「なんとか中国人のみんなと交流したい」そして「そう思っている人もまだまだ沢山いるはずだ」。そこでたくさんの先生方、友人方、サポートセンターの皆様のお力添えのおかげにより、我が同好会はここに誕生することが出来ました。ありがとうございます。

日本のお隣の大国である中国。いま発展の目覚ましい中国。世界の6分の1の人口の誇る中国。こんな魅力的な中国のことをもっとたくさん知り、あわよくば言葉も習得したい。僕等はそう考えています。そして、中国人留学生の皆には「もっと日本を知ってほしい」「日常日本語会話の練習になっていただければ幸いです」「困ったことがあったらなんでも相談してほしい」ということで相互



利益な関係を目指し、日々精進している次第です。同好会の今現在の活動は、月曜日と水曜日の昼休みに教室を借りて(主にゼミ室1)日本人と中国人が入り乱れてのちょっとした会話勉強と雑談です。まだ始まったばかりで、仲良くなっていく兆しが見えてきた程度ですが、先日の、過去最高最多数の10人程度の日本人とそれ以上の中国人が集まって談笑した日は、本当に夢のようで感動しました。

まだ僕たちの同好会に入っていない留学生の人や、中国人と話してみたい人、中国語を覚えたい人は、月曜日か水曜日にゼミ1を覗いてみてください。その他、何か聞きたいことがあったら、Ofk0f03k725508h@ezweb.ne.jp川崎までどうぞ。

## 日中異文化研究会

2年 川崎 巡也

## DTM Circle Sound Terminal

3年 三輪 智也

ク  
ラ  
ブ  
紹  
介

一昨年、2005年にDTM Circle Sound TerminalとしてDTM専門サークルを立ち上げて早2年、今年度、ようやく念願の公認部に昇格しました。

DTMとはDesktop Musicの略で、パソコン上で作曲を行う事を指します。世の中の90%以上の音楽がDTMと言っても過言ではない時代に、プロとほぼ変わらない環境で作曲を行う事が可能です。もちろん、楽器を弾ける・弾けないに関わらず作曲は可能ですし、楽器を演奏して、それを録音することも可能です。

サークルの活動形態は、どこかに集まって製作するのではなく、各自で製作していく「部活」としては稀な形態を取っています。もちろん、最終的にはCDとして作品をリリースし、蒼天祭等で頒布しますが、各部員の「個性」を生かす作品作り、そして音楽で誰かの心を動かせるような曲作りを心がけています。

現在は実質的に活動している部員は9名と若干少なめですが、各自多種多様な音楽との接点・基盤を持ち、個人活動も活発に行っており、僕自身

も個人サークルでの活動から、バンドでの活動、邦楽を含む曲の製作・曲提供、ライブ録音まで行っていますが、部員も負けないぐらいの活動を行っています。

興味が少しでもありましたら、学内ポスターの連絡先、もしくは部室棟の部室までお越し下さい。DTMサークルは音楽で誰かの心を動かしたい人を募集中です。

また、この記事を読んで下さっている学生・保護者の方々、今年度はサークルとして蒼天祭でのCD頒布、そしてオリジナル曲を含んだライブも行う予定ですので、宜しければ是非お越し下さい。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。



## 平成19年度 北海道情報大学 公開講座開始

平成19年度公開講座が実施されています。今年  
はコンピュタリテラシ関連の講座で中級の講座  
を開講するなど、回数・内容共に一層の充実を図

りました。リピーターの方も増えるなど、市民に  
もだいぶ定着してきた感があります。すでに実施  
された公開講座は次の通りです。

1. 脱初級！Word&Excel～「使える」機能の紹介～(全2回)  
日程・場所：5月17日(木)、24日(木) 19:00～20:30 ・本学実習室1  
講師：北海道情報大学准教授 広奥暢 / 本学非常勤講師 北島優
2. 株式投資戦略(全4回)  
日程・場所：5月14日、21日、28日、6月4日(毎週月曜日) 18:00～19:30 ・札幌サテライト教室  
講師：北海道情報大学教授 玉山和夫
3. 生活習慣病とホルモン -インスリンの発見から最新情報まで-  
日程・場所：5月22日(火) 18:00～19:30 ・札幌サテライト教室  
講師：北海道情報大学教授 中林秀和
4. 体験！デジタルビデオ編集(全8回)  
日程・場所：5月19日～7月7日(毎週土曜日)9:00～12:00 ・本学画像メディア実習室  
講師：北海道情報大学教授 上原士郎 / 北海道情報大学准教授 向田茂
5. 中級者向け ひとつ上を行くHomePageの作り方～XHTML+CSS～(全4回)  
日程・場所：6月7日、14日、21日、28日(毎週木曜日) 19:00～20:30 ・本学実習室1  
講師：北海道情報大学准教授 広奥暢 / 本学非常勤講師 北島優
6. 北の大地に生きた女性医師たち -荻野吟子らの足跡をたどる-  
日程・場所：6月9日(土) 10:30～12:00 ・札幌サテライト教室  
講師：北海道情報大学教授 平子玲子
7. 啄木と小説 -北海道時代とその前後-  
日程・場所：6月16日(土) 10:30～12:00 ・札幌サテライト教室  
講師：北海道情報大学教授 立花峰夫
8. コンビニエンスストア(CVS)と情報ネットワークとの関係  
日程・場所：6月26日(火) 9:00～10:30 ・本学212教室  
講師：セイコーマート株式会社 常務取締役 井上充
9. 情報とは何か…知ること  
日程・場所：6月29日(金) 16:15～17:45 ・本学松尾記念館講堂  
講師：河北総合病院理事長 河北博文
10. デジタルカメラの基礎①  
日程・場所：6月30日(土) 13:00～16:00 ・札幌サテライト  
講師：本学非常勤講師 北島優
11. 日本経済と外交の関係  
日程・場所：7月3日(火) 14:35～16:05 ・本学213教室  
講師：外務省副報道官 谷口智彦
12. フォトショップ始めの一步①(全3回)  
日程・場所：7月4日(水)～6日(金) 18:00～20:00 ・本学画像メディア実習室  
講師：本学非常勤講師 北島優
13. 特別講演会 国際化時代に望まれる人材  
日程・場所：7月19日(木) 10:40～12:10 ・本学松尾記念館講堂  
講師：日本IBM最高顧問 財団法人経済同友会終身幹事 北城恪太郎

## 14. 高齢化と認知症について ―診断と対策―

日程・場所：7月24日(火) 18:00～19:30 ・札幌サテライト教室

講師：北海道情報大学教授 西平順

## 15. コンピュータで暑中見舞いを作ろう(全2回)

日程・場所：7月28日(土)、29日(日) 13:00～16:00 ・札幌サテライト教室

講師：北海道情報大学職員 吉村美穂

また、これから開催される前期の講座は次の通りです。今年もすべて無料で実施しています。

・申し込み問い合わせ先 北海道情報大学 総務課 企画交流係

電話：011-385-4411(代表)／ファックス：011-384-0134／e-mail：kikaku@do-johodai.ac.jp

## 1. ゆっくりのんびりWORDに挑戦(全5回)

日 程	場 所	対象・定員	講 師
8月20日(月)～24日(金) 13:30～15:30	本学実習室 1	一般20名	北海道情報大学職員 吉村美穂

内容：以前にワープロ講習を経験した方で「もう一度ワープロに挑戦したい」という初心者の方を対象に講座を実施します。Wordによる文章の入力や表の作成、飾り文字の入れ方、イラスト・写真の貼り付け方等を講習し、簡単なチラシ、ミニ新聞等を作成します。

## 2. プログラミング入門―JavaScriptを通して―(全3回)

日 程	場 所	対象・定員	講 師
9月8日、15日、22日(毎週土曜日) 10:00～12:30	札幌サテライト	高校生20名	北海道情報大学講師 柳信一

内容：高校生を対象にJavaScriptのプログラミング講座を実施します。コンピュータは利用できるけれどプログラムは分からないという高校生を対象に、プログラミングの基礎を実習を通して解説します。

## 3. 骨粗しょう症について学ぼう―診断と予防について―

日 程	場 所	対象・定員	講 師
9月18日(火) 18:00～19:30	札幌サテライト	一般50名	北海道情報大学教授 西平順

内容：加齢にともなう骨のカルシウム量が減少(骨粗しょう症)は、腰痛や背骨の変形などを引き起こし、生活の質の低下につながる。この病気は、加齢だけではなく、極端な運動不足(寝たきり)や長期の宇宙滞在でも発症する。本講座では、骨粗しょう症がどのような病気なのか、その原因について概説し、その治療法と予防法について述べる。

## 4. 旅行で使える中国語(全4回)

日 程	場 所	対象・定員	講 師
10月5、12、19、26日(毎週金曜日) 14:30～16:30	札幌サテライト	一般20名	北海道情報大学職員 杜娟

内容：旅行の醍醐味は、なんといっても現地の人とのコミュニケーション。この講座では、旅行の際によく使う中国語を中心に、簡単な文法や発音を学習します。初心者対象。中国の文化・風習などについてもふれます。お隣の国、中国への理解を深めませんか。



## 学生相談室 について

### 学生相談室は身近な相談相手です

皆さんのきょうだいや両親、友達や先輩が悩みごとの相談に乗ってくれるでしょう。それでも解決しないとき…

臨床心理士と教職員が、学生生活のさまざまな悩みを一緒に考え、あなたをサポートします。

たとえばこんな悩み…

- ◆眠れない、何もやる気がしない。
- ◆友達が作れない。
- ◆勉強のことで困っている。

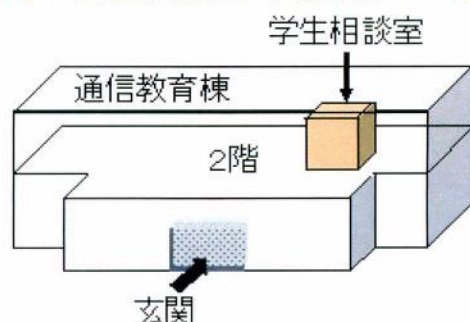
相談した内容については秘密を守ります。

### 学生相談室の利用方法

- ◆相談希望者は直接学生相談室あるいは相談担当者を訪ねてください。
- ◆相談を継続する場合、2回目以降は時間を予約して頂くことがあります。
- ◆相談室の利用時間は

<http://www.do-johodai.ac.jp/campus/soudan.html>  
で確認できます。

### 学生相談室の場所は…



# 2007 第7回 作品募集中

# Webデザイン コンテスト

本学学生なら誰でも応募できます

締め切り：2007. 9. 21

募集作品：Web作品（テーマ，フリー，ビギナー）  
Poster作品

作品提出方法など詳細は、本学教務課前にある募集要項  
または、<http://wdc.do-johodai.ac.jp>をご覧ください。

# 学校法人 電子開発学園 平成18年度決算の概要

平成18年度決算が評議員会ならびに理事会で承認されましたので、その概要についてお知らせ致します。学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を示す「資金収支計算書」、経営状態を示す「消費収支計算書」、財政状態を示す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条および学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成したものです。

消費収入の部では、大学の学生寮新築による補助活動収入(事業収入)、及び有価証券購入による受取利息の増加等がありました。学生生徒等納付金、大学の寄付金及び国庫補助金、専門学校の地方公共団体補助金等の減少等により帰属収入合計は前年比61百万円減少し、3,793百万円となりました。基本金組入額合計は、学生寮新築工事、専門学校の衛星教室用の機器備品の入替え等を実施し、前年比346百万円増加の505百万円となり、帰属収入合計から基本金組入額合計を差引いた消費収入の部合計は前年比407百万円減少し、

3,287百万円となりました。

消費支出の部では、人件費は、平成18年度から開設された大学の医療情報学科の専任教員の採用等により前年比58百万円増加し、1,689百万円となりました。教育研究経費では、大学の国際交流センターの保全工事等による増加がありましたが、その他の経費圧縮に努め、前年比84百万円の減少で、1,380百万円となりました。管理経費では、国際交流センターの保全工事、学生寮に対する経費の補助活動収入原価等で前年比72百万円増加し、609百万円となり、消費支出の部合計は前年比42百万円増加の3,714百万円となりました。

これらの結果、当年度消費支出超過額は前年比450百万円減少の426百万円となり、翌年度繰越消費収入超過額は前年比424百万円減少の1,169百万円となりました。少子化、国立大学の独立法人化等私立大学を取り巻く環境は厳しさを増しており、健全な財務体質を維持するため、教職員のより一層の努力が必要です。

## 資金収支計算書

平成18年4月1日～平成19年3月31日

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,318,292,000	3,333,304,730	△ 15,012,730
手数料収入	33,678,000	32,311,365	1,366,635
補助金収入	356,619,000	349,880,899	6,738,101
国庫補助金収入	328,313,000	321,580,000	6,733,000
地方公共団体補助金収入	28,306,000	28,300,899	5,101
資産運用収入	32,203,000	33,893,563	△ 1,690,563
資産売却収入	0	200,000,000	△ 200,000,000
事業収入	22,010,000	21,362,813	647,187
雑収入	19,149,000	20,919,068	△ 1,770,068
前受金収入	1,648,235,000	1,426,867,151	221,367,849
その他の収入	88,314,000	58,834,729	29,479,271
資金収入調整勘定	△ 1,577,658,000	△ 1,573,182,935	△ 4,475,065
前年度繰越支払資金	5,810,914,000	5,810,913,857	143
収入の部合計	9,751,756,000	9,715,105,240	36,650,760

## 支出の部

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,691,071,000	1,684,923,093	6,147,907
教育研究経費支出	1,152,242,000	1,119,714,898	32,527,102
管理経費支出	585,623,000	581,011,787	4,611,213
借入金等利息支出	3,269,000	3,267,309	1,691
借入金等返済支出	142,690,000	142,690,000	0
施設関係支出	356,855,000	356,037,451	817,549
設備関係支出	36,785,000	32,312,631	4,472,369
資産運用支出	14,963,000	1,915,108,271	△ 1,900,145,271
その他の支出	404,395,000	389,272,748	15,122,252
資金支出調整勘定	△ 323,671,000	△ 398,947,546	75,276,546
次年度繰越支払資金	5,687,534,000	3,889,714,598	1,797,819,402
支出の部合計	9,751,756,000	9,715,105,240	36,650,760

## 消費収支計算書

平成18年4月1日～平成19年3月31日

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,318,292,000	3,333,304,730	△ 15,012,730
手数料	33,678,000	32,311,365	1,366,635
寄付金	250,000	380,735	△ 130,735
補助金	356,619,000	349,880,899	6,738,101
国庫補助金	328,313,000	321,580,000	6,733,000
地方公共団体補助金	28,306,000	28,300,899	5,101
資産運用収入	32,203,000	33,893,563	△ 1,690,563
事業収入	22,010,000	21,362,813	647,187
雑収入	20,135,000	22,530,928	△ 2,395,928
帰属収入合計	3,783,187,000	3,793,665,033	△ 10,478,033
基本金組入額合計	△ 522,265,000	△ 505,758,603	△ 16,506,397
消費収入の部合計	3,260,922,000	3,287,906,430	△ 26,984,430

## 消費支出の部

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	1,695,878,000	1,689,876,000	6,002,000
教育研究経費	1,411,838,000	1,380,682,358	31,155,642
管理経費	614,271,000	609,739,473	4,531,527
借入金等利息	3,269,000	3,267,309	1,691
資産処分差額	2,381,000	6,253,893	△ 3,872,893
徴収不能引当金繰入額	13,651,000	6,359,500	7,291,500
徴収不能額	15,271,000	18,647,000	△ 3,376,000
消費支出の部合計	3,756,559,000	3,714,825,533	41,733,467
当年度消費支出超過額	△ 495,637,000	△ 426,919,103	
前年度繰越消費収入超過額	1,594,604,000	1,594,604,280	
基本金取崩額	3,387,000	2,250,062	
翌年度繰越消費収入超過額	1,102,354,000	1,169,935,239	

## 貸借対照表

平成19年3月31日

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	9,008,922,592	7,200,082,780	1,808,839,812
有形固定資産	6,768,979,591	6,672,815,133	96,164,458
土地	1,725,516,149	1,725,516,149	0
建物	4,270,980,144	4,073,017,364	197,962,780
その他の有形固定資産	772,483,298	874,281,620	△ 101,798,322
その他の固定資産	2,239,943,001	527,267,647	1,712,675,354
流動資産	3,952,404,131	5,860,397,189	△ 1,907,993,058
現金預金	3,889,714,598	5,810,913,857	△ 1,921,199,259
その他の流動資産	62,689,533	49,483,332	13,206,201
資産の部合計	12,961,326,723	13,060,479,969	△ 99,153,246

## 負債の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	178,647,079	316,384,172	△ 137,737,093
長期借入金	95,700,000	238,390,000	△ 142,690,000
その他の固定負債	82,947,079	77,994,172	4,952,907
流動負債	1,974,139,419	2,014,395,072	△ 40,255,653
短期借入金	142,690,000	142,690,000	0
その他の流動負債	1,831,449,419	1,871,705,072	△ 40,255,653
負債の部合計	2,152,786,498	2,330,779,244	△ 177,992,746

## 基本金の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	9,365,604,986	8,864,096,445	501,508,541
第4号基本金	273,000,000	271,000,000	2,000,000
基本金の部合計	9,638,604,986	9,135,096,445	503,508,541

## 消費収支差額の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	1,169,935,239	1,594,604,280	△ 424,669,041
消費収支差額の部合計	1,169,935,239	1,594,604,280	△ 424,669,041
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	12,961,326,723	13,060,479,969	△ 99,153,246

◆◆教職員の動向◆◆

<教員> (4月1日付)

就任	学長	嘉数 侑昇
	副学長	原 暉之
	経営情報学部長	林 雄二
	通信教育部長	外山 清高
	学生部長	長井 敏行
	情報センター長	中岡快二郎
	経営ネットワーク学科主任	富士 隆
	システム情報学科主任	森澤 好臣
	医療情報学科主任	西平 順
	情報メディア学科主任	坂上 修二
	教養主任	加納 邦光
採用	特任教授	井野 智
	准教授	大川原辰也
	准教授	倉部 直子
	准教授	安田 光孝
	講師	佐野 秀行
	講師	五十嵐 哲也
昇任	教授	谷川 健
	教授	田中 英夫
その他	助教授 → 准教授に職名変更	
<職員> (4月1日付)		
兼務	大学副事務局長	中島 安敬
	入試課長	木田 洋
配置換	広報室係長	小川 勝利(学生サポートセンター事務室係長)
	学生サポートセンター事務室主任	松尾 俊樹(広報室主任)

◆◆主要行事(4月1日~8月1日)◆◆

- ◇法人本部◇
  - 4月25日(水) 労使協議会
  - 5月14日(月)~19日(土) 監査法人トーマツ「平成18年度決算監査」
  - 24日(木) 理事会
  - 28日(月) 人事院北海道「給与調査」
  - 6月7日(木) 日本私立学校振興・共済事業団「貯金・保険PR」
- ◇大 学◇
  - 4月4日 入学式
  - 6日~7日 新入生宿泊研修
  - 9日 前期開講
  - 13日 経営情報学部教授会
  - 20日 情報メディア学部教授会
  - 27日 全学教授会
  - 5月11日 経営情報学部教授会
  - 14日~6月4日 公開講座「株式投資戦略(全4回)」
  - 17日~24日 公開講座「脱初級! Word&Excel ~「使える」機能の紹介~(全2回)」
  - 18日 情報メディア学部教授会
  - 19日~7月7日 公開講座「体験! デジタルビデオ編集(全8回)」
  - 22日 全学教授会
  - 公開講座「生活習慣病とホルモン -インスリンの発見から最新情報まで-
  - 6月7日~28日 公開講座「中級者向け ひとつ上を行くHomePageの作り方~HTML+CSS~(全4回)」
  - 8日 経営情報学部教授会
  - 9日 公開講座「北の大地に生きた女性医師たち -荻野吟子らの足跡をたどる-
  - 10日 創立記念日
  - 15日 情報メディア学部教授会
  - 16日 公開講座「啄木と小説 -北海道時代とその前後-
  - 20日~21日 体育祭
  - 29日 全学教授会
  - 公開講座「情報とは何か...知ること」
  - 30日 公開講座「デジタルカメラの基礎①」
  - 7月3日 公開講座「日本経済と外交の関係」/講演会「コンビニエンスストア(CVS)と情報ネットワークとの関係
  - 4日 公開講座「フォトショップ始めの一歩①(全3回)」
  - 6日~15日 南京大学日本文化研修
  - 13日 経営情報学部教授会
  - 19日 特別講演会「国際化時代に望まれる人材」(講師 日本IBM最高顧問 北城格太郎氏)
  - 20日 情報メディア学部教授会
  - 21日~22日 A O入学試験(A日程)
  - 24日~8月1日 前期定期試験
  - 27日 全学教授会
- ◇大 学 院◇
  - 4月4日(水) 研究科委員会
  - 10日(火) 大学院特別科目等履修生説明会
  - 21日(土) 大学院教育センター長推薦入試
  - 25日(水) 研究科委員会

- 5月19日(土) 大学院推薦入試
- 6月8日(金) 研究科委員会
- 7月6日(金) 大学院学術(給付)奨学生選考会
- 20日(金) 学位論文等中間報告会
- ◇通信教育部◇
  - 4月19日(木) 名古屋教育センター 大学見学
  - 6月22日(金) 富士通ユーザ会(CS研究会)
  - 7月23日(月) 新潟教育センター 大学見学
  - 8月1日(水) 「第4回日本e-learning大賞」総務大臣賞受賞表彰式 (東京国際展示場にて)

◆◆広報活動◆◆

- <進学相談会>
  - 4月:北海道 4会場(旭川、北見、釧路、帯広)
  - 5月:北海道 11会場(枝幸、紋別、網走、函館(2)、稚内、札幌(2)、旭川、北見)
  - 青森県 3会場(弘前、青森、八戸)
  - 岩手県 1会場(盛岡)
  - 秋田県 1会場(秋田)
  - 埼玉県 1会場(さいたま)
  - 6月:北海道 18会場(釧路(2)、浦河、稚内、名寄、函館、札幌(2)、小樽、苫小牧、室蘭、旭川、北見、帯広、根室、中標津、江差、留萌)
  - 新潟県 1会場(新潟)
  - 群馬県 1会場(桐生)
  - 7月:青森県 2会場(青森(2))
  - 岩手県 1会場(盛岡)
- <高校内ガイダンス>
  - 4月:北海道 4校
  - 5月:北海道 11校
  - 栃木県 1校
  - 埼玉県 1校
  - 千葉県 3校
  - 東京都 3校
  - 神奈川県 1校
  - 6月:北海道 24校
  - 栃木県 1校
  - 埼玉県 4校
  - 千葉県 1校
  - 神奈川県 1校
  - 7月:北海道 5校
  - 埼玉県 2校
  - 東京都 1校
- <高校出張授業>
  - 6月:北海道 1校
- <高校訪問>
  - 4月:北海道80校、千葉県4校、東京都4校、神奈川県1校
  - 5月:北海道209校、青森30校、栃木県1校、埼玉県11校、千葉県1校、東京都12校、神奈川県7校
  - 6月:北海道61校、岩手県30校、秋田県30校、群馬県1校、埼玉県3校、千葉県5校、東京都7校、神奈川県4校
  - 7月:北海道265校、青森県30校、岩手県30校、秋田県30校、埼玉県4校、千葉県4校、東京都12校、神奈川県8校
- <AO入試・奨学金説明会>
  - 6月6日(日) 本学
  - <オープンキャンパス>
    - 4月22日(日) 本学
    - 5月26日(土) 釧路、北見
    - 27日(日) 函館、帯広、旭川
    - 6月24日(日) 本学
    - 7月28日(土) 本学
    - 29日(日) 本学
  - <教員対象大学説明会>
    - 6月22日(金) 東京
  - <広報室来学者>
    - 5月23日(水) 函館大学付属有斗高校(教員1名)
    - 6月7日(木) 古平高校(大学見学:学生4名、教員1名)
    - 8日(金) 千歳北陽高校(PTA大学見学:PTA13名、教員8名)
    - 9日(土) 双葉高校(大学見学:学生2名)
    - 14日(木) 大樹高校(大学見学:学生1名)
    - 19日(火) 石狩翔陽高校(上級学校見学:学生40名)
    - 21日(木) とわの森三愛高校(志望校体験ツアー:学生3名)
    - 25日(月) 奈井江高校(大学見学:学生1名)
    - 28日(木) 野幌高校(大学進学体験:学生12名)
    - 29日(金) 野幌高校(大学進学体験:学生16名)
    - 7月11日(水) 旭川滝谷高校(大学見学:学生11名)
    - 31日(火) 旭川東高校(教員1名)
- <大学来学者>
  - 4月4日(水) 南京大学 王守仁外国語学院長、汪平同副院長
  - 5月21日(月) タイ Rajamangala University of Technology Thanyaburi (8名)
  - 7月12日(木) 南京大学日本文化研修一行(21名)
  - 7月23日(月) 大阪大学(12名)

編集後記

よさこいソーランの五位入賞は近年にない快挙であった。情報大と言え、とかくコンピュータだけの大学と見られがちなのに、芸術的な面でもセンスの良い学生が大勢いることをアピールできたことの意味は大きい。先日キャリアガイダンス講座で講演してくれた卒業生の一人が、新聞でその記事を読み、とても嬉しかったと語っていたが、同じように「元気」をもらった同窓生、情報大関係者も多かったことだろう。(U)